

小栗の里整備事業
基本構想

平成20年3月

小栗の里整備推進委員会

『小栗の里整備事業基本構想』策定に際して

高崎経済大学地域政策学部 村山 元展

小栗の里整備事業推進委員会を代表してひと言ご挨拶させていただきます。

ご存じのように、小栗の里整備事業は高崎市新市建設計画における倉淵地域の重点事業として位置づけられています。今後の倉淵地域活性化の基本方向を指し示す構想となるわけですから、推進委員会一同は責任の大きさを実感し慎重に議論を重ねてまいりました。

議論の最大の焦点が、旧倉淵村時代の「小栗の里構想」との関連でした。「小栗の里」という言葉を本整備事業が共有したことも一因でした。つまり、小栗上野介の偉業を偲ぶための都丸邸の移築が事業の中心にあるべきではないかとする意見と、倉淵地域全体の地域活性化の基本構想とすべきではないかとする意見をめぐる議論でした。最終的に委員会では、倉淵地域の活性化という将来を見通す観点から農業や観光といった産業、自然・文化の保全、集落や行政区等のコミュニティー活性化、多様な住民参加の仕組みづくりなどの幅広い事業を取り上げるべきではないかという結論に達しました。

その方向付けを決定的にしたのが、平成 19 年 7 月に実施した「各種団体意向調査」でした。これは倉淵地域で活動する 25 団体を対象に『小栗の里整備事業基本構想』のあり方を問いかけたもので、24 団体から回答をいただきました。委員会では基本構想策定には住民参加が不可欠として、住民からの意向聴取の方法を重視していましたが、このように地域活動に取り組む皆さんからご意見をいただく形で実施させていただきました。その結果、ほとんどの団体が倉淵地域全体を「小栗の里」と位置づけるべきとの意見をいただきました。要するに倉淵地域全体の活性化構想とする考え方です。また活性化の拠点となる施設整備の必要性、そこでの特産品の販売、地域文化の紹介、観光案内などの諸機能の重要性についてもご指摘いただきました。

こうした経緯をふまえて策定されたのが本基本構想です。しかしその具体化に向けてはまだ重要な課題が残されています。いうまでもなく地域活性化には、より良い地域となることを願いその実現に向けて主体的に取り組む多くの自覚的地域住民が存在することが前提となります。人的資源こそが地域づくりのポイントともいえます。つまり本事業の実施は単なる施設整備に終わることなく、その具体化の計画段階から住民参加を推進し、先進地域等の学習機会を積極的に設けるなどの人的資源育成に取り組むべきでしょう。施設整備はその手段ともいえます。

本基本構想の策定にあたっては、委員のみなさんはもちろん、委員会を支えていただいた事務局の力に負うところが大きかったと思っています。最後になりましたが、関係者のみなさんに感謝するとともに、今後さらに倉淵地域住民、高崎市民みんなに開かれた事業の具体化を進めていただくことをお願いいたします。

目 次

第1章 小栗の里整備事業基本構想策定の趣旨	1
1 基本構想策定の背景	1
2 基本構想策定の目的	1
3 計画策定スケジュール	3
第2章 倉淵地域の現状と課題	4
1 倉淵地域の特性	4
(1) 自然	4
(2) 交通	5
(3) 歴史と沿革	6
(4) 人口	7
(5) 産業	7
(6) 観光	8
(7) 都市農村交流	9
2 倉淵地域の課題	10
(1) 過疎化・少子高齢化による地域活力の低下	10
(2) 産業の衰退	11
第3章 小栗の里整備事業の基本的方向性	16
1 小栗の里を核とした倉淵地域の活性化	16
2 豊かな自然環境を活かした都市との交流	16
(1) 観光の振興	16
(2) 産業物産の振興	16
(3) 文化の振興	17
3 小栗の里を支える人の育成と情報ネットワークの構築	17
4 住民参加による事業の推進	17
第4章 小栗の里づくりのための重点事業	18
1 拠点施設整備	18
(1) 施設整備に向けての基本方針	18
(2) 基本方針の具体的イメージ	19
(3) 拠点施設整備の計画諸条件(整備すべき場所の要件)	24

2	小栗上野介顕彰事業への支援	28
(1)	小栗まつりへの開催支援	28
(2)	講演会の開催支援	28
(3)	パネル展の開催支援	28
(4)	パンフレットの作成	29
3	小栗上野介関連史跡等の整備	30
(1)	史跡の考え方	30
(2)	史跡周辺の整備	32
(3)	史跡の統一的な案内看板の設置	32
	資料	34
資料 1	小栗の里整備事業基本構想骨子(案)策定のための 各種団体意向調査集計表	35
資料 - 2	小栗の里整備推進委員会設置要綱	53
資料 - 3	小栗の里整備推進委員名簿	55
資料 4	小栗の里整備推進委員会の経過	56

第1章 小栗の里整備事業基本構想策定の趣旨

1 基本構想策定の背景

合併した各地域の特性を活かすとともに、新市の均衡ある発展を目指し策定された新市建設計画は、「人が元気・人が輝く・自然と歴史と文化が調和する交流拠点都市 たかさき」を新しい高崎市の将来像とし、倉淵地域は「自然共生ゾーン」として位置づけられています。

また、「小栗の里整備事業」は、この計画の中の地域別整備方針において、倉淵地域の重点事業として位置づけられ、平成20年度から新たにスタートする高崎市第5次総合計画にも引き継がれています。

新市建設計画地域別整備方針における小栗の里整備事業

倉淵地域の貴重な歴史遺産である小栗上野介ゆかりの史跡等の整備を進めるなかで、地域文化の拠点となる施設を整備します。情報発信基地となる資料館や、集客力を高めるための美術品展示施設や道の駅の機能を持った施設も併せて整備を進めます。

合併前には、倉淵村小栗の里等整備審議会が「小栗の里づくり事業」についての諮問を受け、その方向性を検討し答申を出していますが、合併後、これまでの経緯を踏まえながらも、新高崎市における倉淵地域の振興という視点から、旧倉淵村関係者のみならず幅広い有識者の意見をも反映した「小栗の里整備基本構想」を策定し、基本構想に沿って事業の推進を図ることにより倉淵地域の一層の発展を目指していきます。

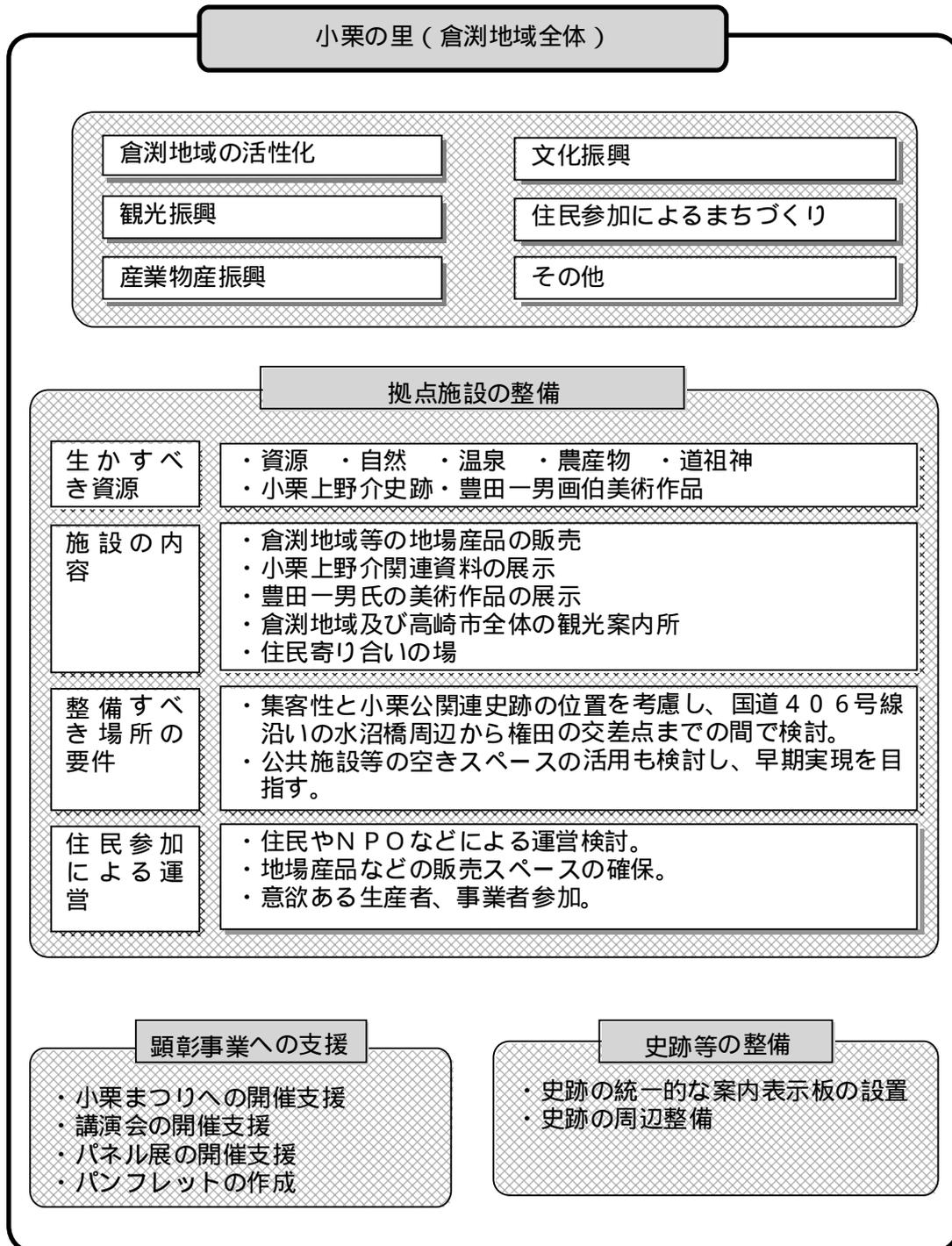
なお、高崎市過疎地域自立促進計画（平成17年度～21年度）でも、地域文化の振興等の項目において、『最近関心の高まっている「小栗上野介忠順」の正当な評価の取り組みと史跡整備や活用による「小栗の里づくり」を推進する。』と計画しています。

また、第5次総合計画第2部第3章「地域のまちづくり」第2節倉淵地域（自然共生ゾーン）の施策の展開において、将来像やまちづくりの方向性を示しており、その実現を図るための重点施策として「小栗上野介ゆかりの史跡等を核に、道の駅機能を併せ持つ施設の整備を推進します。」と位置づけています。

2 基本構想策定の目的

小栗上野介をはじめとする歴史・文化・自然・景観・産業・生活など倉淵地域の資源を活かしながら、倉淵地域全体を市民、観光客など誰もが「くらぶち」の魅力体験し、学び、伝承できるフィールドとして捉え、一体的に整備・活用を図っていくための基本的な指針として基本構想を策定します。

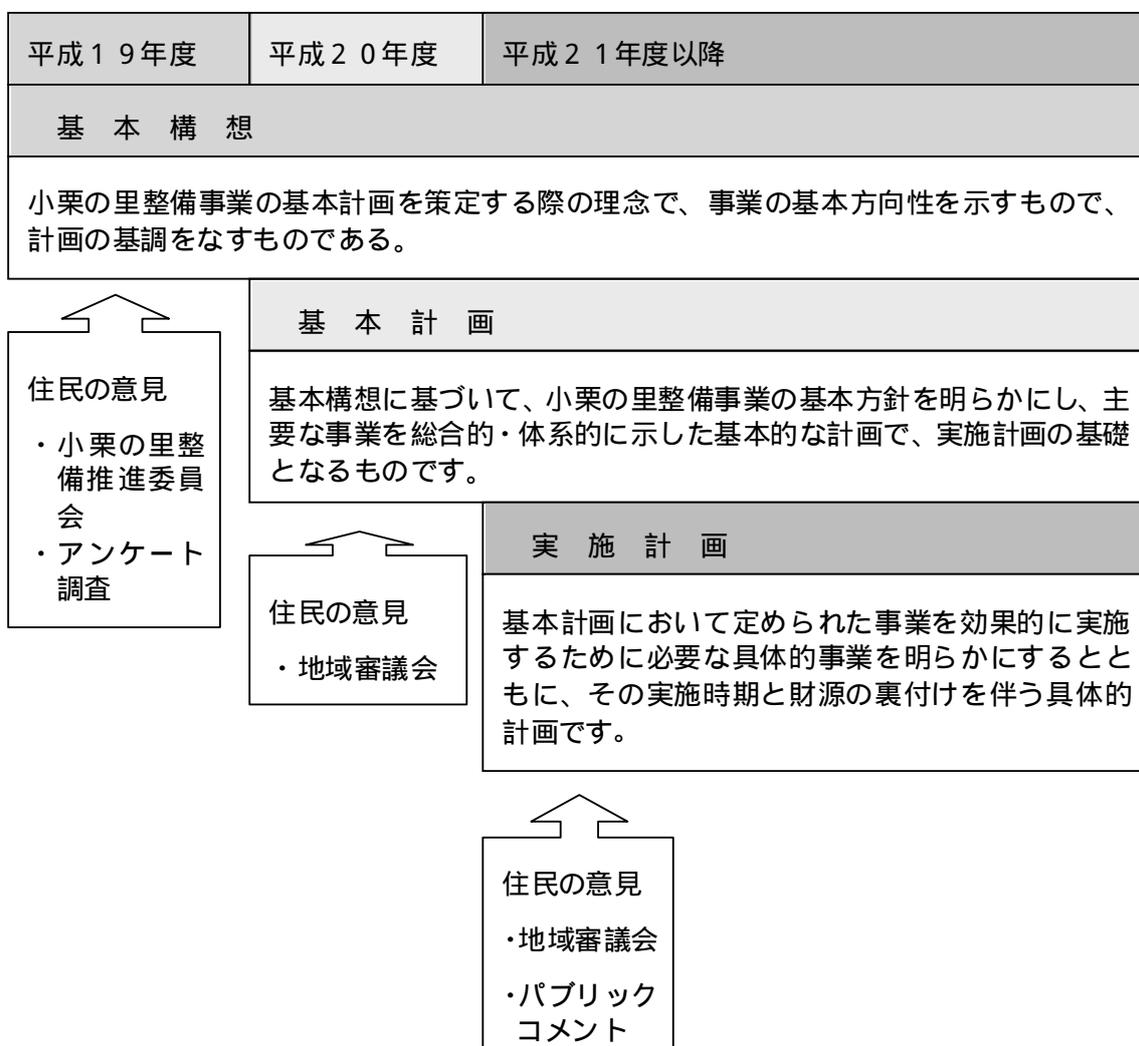
【小栗の里整備事業体系図】



3 計画策定スケジュール

本基本構想は、小栗の里づくりにおける理念や施策の基本方向性を示すものです。平成20年度にこれを受けて目標達成のための主要な施策を総合的・体系的に示した基本計画を策定します。平成21年度以降には、高崎市の財政事情を勘案して基本計画に定められた施策を効果的に実施するための具体的・個別事業の実施計画を策定し、円滑な事業の推進を図ります。

なお、基本計画、実施計画の策定にあたっては、必用に応じて市民や関係団体、関係機関等の意見を反映させるための推進組織などの設置を検討していきます。



2章 倉淵地域の現状と課題

1 倉淵地域の特性

(1) 自然

高崎市は、東西43.45km、南北24.65km、総面積401.01km²で、群馬県の中西部に位置し、埼玉県北部に接する新町地域から、長野県南東部に接する6つの地域で構成されています。地形は南東から北西へと長い形を成しており、南東部は関東平野の一部を形成する平坦地形である一方、北西部はゆるやかな丘陵地形や自然豊かな山々に囲まれた山間地形を有しています。

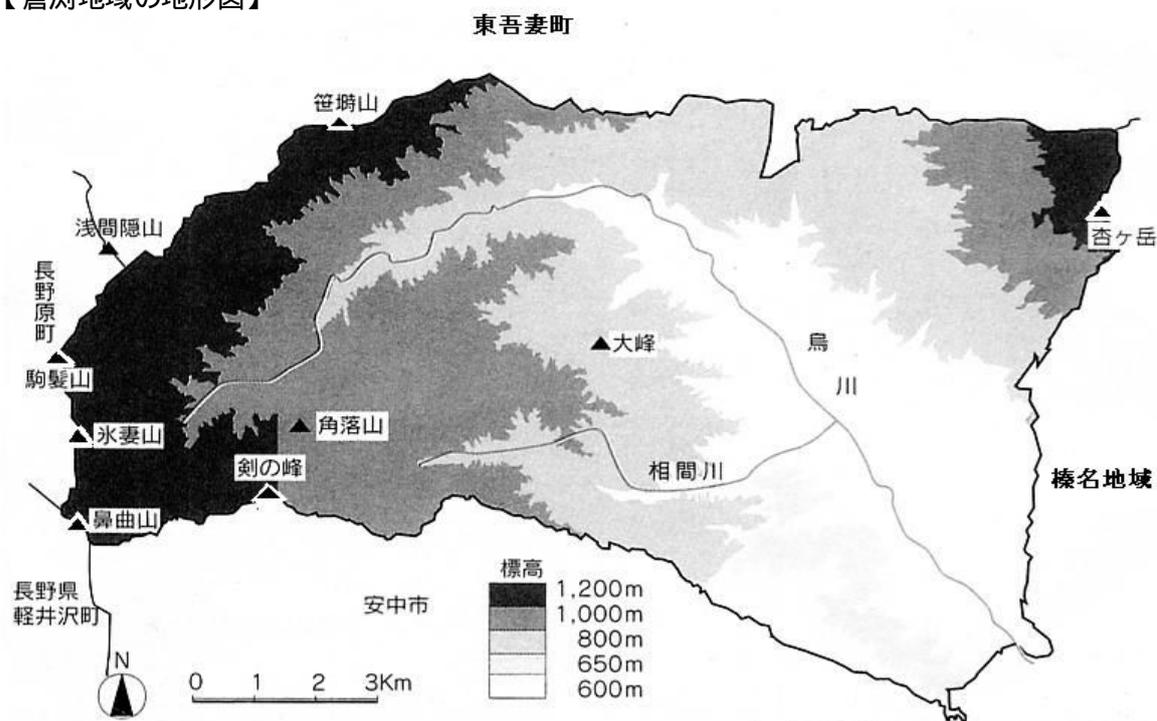
倉淵地域は、東西18.0km、南北11.1kmのやや細長の形をしており、地域の中央を烏川が大きく弧を描いて流れております。烏川に沿った低地と河岸段丘に耕地があり、集落が散在しています。地域の総面積127.26km²のうち山林面積は108.8km²で全体の85.5パーセントを占めています。

東に榛名山系の杏ヶ岳(アエガタケ)、北西部に笹峠山(サドヤマ)、西部に鼻曲山、角落山などが連なる標高320m～1,700mの山間地帯で、気温は日中が高く夜間は冷え込む山地特有の気候です。

【倉淵地域の位置】



【倉渚地域の地形図】



土地利用の状況

(単位: km², %)

地域名	総面積	宅地	田	畑	池沼	山林	原野	雑種地	その他
高崎市 全体	401.01 (100.0)	54.65 (13.6)	30.53 (7.6)	48.17 (12.0)	1.56 (0.4)	102.58 (25.6)	3.56 (0.9)	12.56 (3.1)	147.37 (36.8)
倉渚 地域	127.26 (100.0)	1.33 (1.1)	2.21 (1.7)	5.33 (4.2)	0.01 (0.0)	48.76 (38.3)	1.74 (1.4)	1.94 (1.5)	65.94 (51.8)

注) その他は、上記以外の地目及び国有林・県有林を含む。

〔資料：固定資産関係資料〕

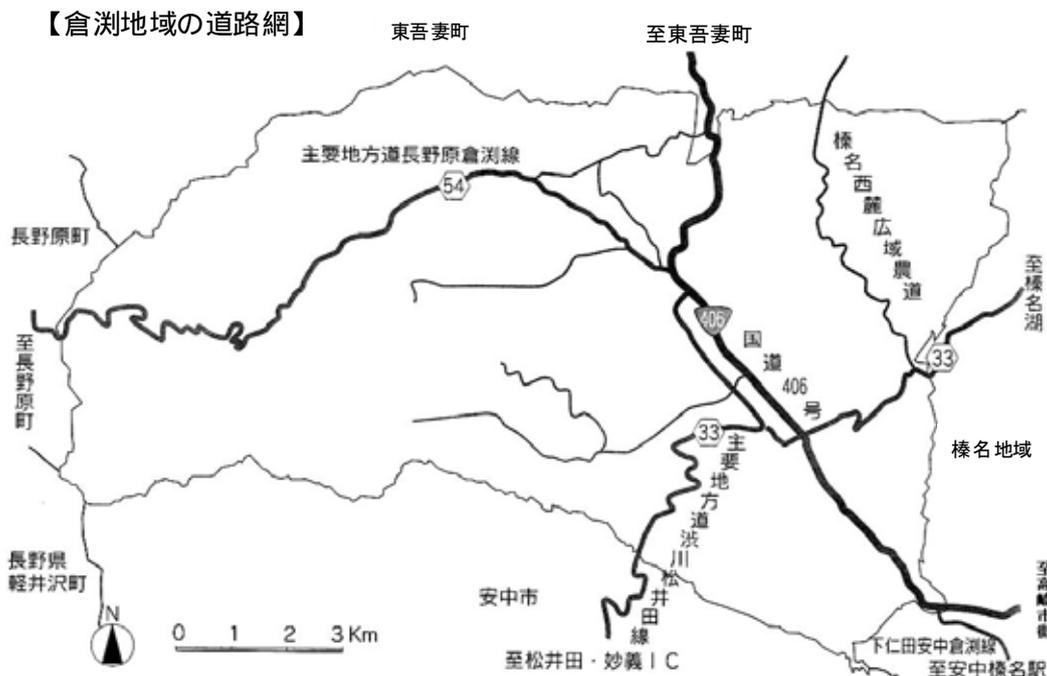
(2) 交通

高崎市は、日本列島のほぼ中央部で、東京へ約100km、新幹線で約50分という位置にあり、古くから交通の要衝として発展し、現在は新幹線2路線、JR在来線5路線、私鉄1路線の基点として、また首都圏の衛星都市として、高速自動車道2路線、そして国道4路線が集中する全国有数の内陸交通の拠点性を有し、経済、運輸の面においてその真価を発揮しています。

倉渚地域は、関越自動車道高崎ICと前橋IC、上信越自動車道松井田妙義ICから40～50分の距離にあり、都心まで2時間圏内に位置しています。地域の中央には、国道406号が縦貫し、主要地方道2路線、一般県道4路線で幹線道路網が形成され、比較的的道路条件には恵まれています。

倉渚地域の唯一の公共交通機関は路線バスで、通勤、通学、高齢者や子どもの移動

手段として運行されています。現在は、群馬バスが高崎～権田間を1日15往復、廃止路線代替バスとして群馬バスが権田～月並間を1日6往復、関越交通が清水（東吾妻町）～権田間を1日8往復運行し、また平成18年10月からは、市内循環バス「ぐるりん」が高崎～権田～倉渚支所間を1日4往復運行しています。



(3) 歴史と沿革

高崎市は江戸時代から中山道随一の商業都市として栄え発展してきました。

明治33年（1900年）4月1日の市制施行以降、昭和2年から40年にかけて周辺14か町村を合併して、平成5年には24万人の都市に成長し、平成13年4月1日には特例市に移行しました。

平成18年1月23日に倉渚村、箕郷町、群馬町、新町と10月1日に榛名町と合併し新高崎市が誕生し、人口は34万人を超え群馬県一の都市となり、さらなる発展と中核市移行に向け力強く踏み出しました。

倉渚地域は、江戸時代に三ノ倉村、権田村、川浦村、岩氷村、水沼村となり坂下五ヶ村とよばれ、高崎からの信州街道として、物資輸送の重要なルートでした。

権田地区は幕末の勘定奉行小栗上野介の采地であり、隠棲していた小栗父子主従は慶応4年（1868年）に西軍により無実の罪で斬首されました。

明治22年の町村制施行により群馬郡倉田村と碓氷郡烏淵村が誕生し、昭和30年の合併で人口8,351人の倉渚村となり、平成の大合併で高崎市に合併しました。

本地域のゆかりの人物に、小栗上野介のほか、蠟画の創始者である豊田一男、箏曲界に新風を吹き込んだ盲目の巨匠 宮下秀列、東京市史の編纂に携わった塚越芳太郎などがいます。

(4) 人口

高崎市の平成17年国勢調査の人口は、339,932人で、平成7年の国勢調査の旧市町村の合計329,901人と比べ、10,131人(約3.0%)増加しています。平成12年の国勢調査と比較しても、6,312人(約1.9%)増加しています。

倉渚地域の人口は、昭和30年以降減少傾向にあり、高崎市の地域別人口において、最も人口の少ない地域です。

倉渚地域の人口、世帯数の推移

(単位：人、世帯)

調査年	昭和30年 (1955年)	昭和40年 (1965年)	昭和50年 (1975年)	昭和60年 (1985年)	平成7年 (1995年)	平成17年 (2005年)
人口	8,351	6,944	6,237	5,732	5,176	4,427
世帯数	1,563	1,537	1,565	1,498	1,511	1,463

[資料：国勢調査]

高崎市の地域別人口、世帯数

(単位：人、世帯)

地域名	倉渚地域	高崎地域	箕郷地域	群馬地域	新町地域	榛名地域	合計
人口	4,427	245,100	19,452	36,764	12,433	21,756	339,932
世帯数	1,462	97,073	6,069	12,771	4,870	6,932	129,177

[資料：平成17年国勢調査]

(5) 産業

高崎市全体の、産業別就業人口は第3次産業に従事している割合が67.0%(110,662人)で、第2次産業が28.3%(46,733人)、第1次産業3.7%(6,163人)となっており、他の地域を見ても、市街地に近いほど第1次産業が少なくなり、第3次産業が増える傾向にあります。

倉渚地域は緑豊かな自然環境のもと、農林業を主要産業として振興してきましたが、昭和30年の第1次産業従事者が70.6%から、平成17年には26.9%まで減少し、第2次産業・第3次産業の従事者が増えています。

一方、高崎市の地域別の一人当たり市町村民所得の状況を見ると、倉渚地域は2,494千円で最も低く、旧高崎市の僅か67%に過ぎません。また、前年度対比はマイナス12.2%と大きく落ち込んでいます。

倉渚地域の産業別就業者人口の推移

(単位：人、%)

区分	昭和30年 (1955年)	昭和40年 (1965年)	昭和50年 (1975年)	昭和60年 (1985年)	平成7年 (1995年)	平成17年 (2005年)
第1次産業	2,644 (70.6)	2,120 (62.0)	1,352 (42.1)	1,020 (32.7)	781 (27.2)	659 (26.9)
第2次産業	582 (15.5)	675 (19.8)	949 (29.6)	1,148 (36.8)	1,011 (35.3)	722 (29.5)
第3次産業	519 (13.9)	620 (18.2)	904 (28.2)	950 (30.5)	1,076 (37.5)	1,068 (43.6)
計	3,745 (100.0)	3,417 (100.0)	3,210 (100.0)	3,118 (100.0)	3,074 (100.0)	2,451 (100.0)

注)1 ()内は構成割合。 注)2 合計は分類不能を含む。

[資料：国勢調査]

高崎市の地域別産業別就業者人口の推移

(単位：人、世帯)

地域名	倉渚地域	高崎地域	箕郷地域	群馬地域	新町地域	榛名地域	合計
第1次産業	659 (26.9)	2,495 (2.1)	739 (7.6)	810 (4.4)	77 (1.3)	1,380 (12.4)	6,160 (3.7)
第2次産業	722 (29.5)	32,051 (27.2)	3,145 (32.2)	5,318 (28.9)	1,785 (30.6)	3,712 (33.5)	46,733 (28.3)
第3次産業	1,068 (43.6)	81,664 (69.4)	5,789 (59.4)	12,217 (66.4)	3,958 (67.9)	5,966 (53.8)	110,662 (67.0)
計	2,451 (100.0)	117,683 (100.0)	9,754 (100.0)	18,404 (100.0)	5,829 (100.0)	11,085 (100.0)	165,206 (100.0)

各産業分類の内訳

[資料：平成17年国勢調査]

- ・第1次産業 農業、林業、漁業
- ・第2次産業 鉱業、建設業、製造業
- ・第3次産業 電気・ガス・熱供給・水道業、運輸・通信業、卸売・小売業・飲食業、不動産業、サービス業

高崎市の地域別の一人当たり市町村民所得

(単位：千円、%)

地域名	倉渚地域	高崎地域	箕郷地域	群馬地域	新町地域	榛名地域
実 額	2,494	3,711	2,795	3,221	2,915	2,828
増加率	-12.2%	-0.1%	1.4%	-1.6%	-2.1%	-0.8%

[資料：平成16年度市町村民経済計算]

(6) 観 光

倉渚地域には、遊休農地を活用して、都市農村交流の促進を目的とする「倉渚クラインガルテン」が平成3年に解説されました。施設内には、貸農園やログハウス、体験実習館「ふれあい館」、ふれあい広場等の施設が整備されています。平成8年に「ふれあい館」に天然温泉を引湯し、日帰り入浴客が増加し平成17年度は約82,000人の利用者がありました。

小栗上野介の縁により昭和56年に横須賀市と姉妹友好都市提携を結び、昭和62年に横須賀市が市民休養村として「はまゆう山荘」を倉渚町川浦地内に建設しました。

石壁造りのモダンな施設に平成17年度には約33,000の方が訪れています。

標高1,100mに位置する「わらび平森林公園キャンプ場」は、本格的なキャンプ愛好者からファミリーまで楽しめ、平成17年度には約30,000の方が訪れています。

その他、県内最大級のループ型ローラースライダーがある倉渚せせらぎ公園や、一軒宿の天然温泉施設が2箇所あり、近年は、浅間隠山、角落山、鼻曲山等への登山客が増えています。

また、倉渚地域内には113体の道祖神が点在し、道祖神の宝庫として全国から注目を浴びており、毎年11月頃には「道祖神めぐり」を開催し、中学生ボランティアによる道祖神の解説が人気を呼んでいます。

(7) 都市農村交流

ア 横須賀市との交流

神奈川県横須賀市との交流は、大正4年の横須賀開港50周年式典に遡り、同市の発展の礎となった横須賀製鉄所の建設が小栗上野介の功績であることから、毎年横須賀で行なわれる記念式典と倉渚村で行なわれる年回法要に、それぞれの代表が招かれ参加するという交流から始まりました。

昭和56年に友好都市提携を結び、昭和62年には村有林内に横須賀市民休養村「はまゆう山荘」が開設され、臨海学園、林間学校、農村体験型修学旅行、ゲートボール大会、ロードレース大会、相互の祭り等での物産販売など、各種の交流が図られてきました。平成18年の市町村合併に伴い、はまゆう山荘は友好の証として倉渚に無償譲渡され、友好都市関係は解消しましたが、地域間の交流は今後も継続されます。

イ 浦安市との交流

千葉県浦安市との交流は水を通じた交流であり、森林のない地域の市民が森林体験等を通じ自然に対する理解や豊かな人間形成を図ることを目的として、江戸川の上流部にあたる倉渚地域に「浦安市民水源の森」を設置し、森林環境や自然体験学習会の開催や児童等の森林体験を行なっています。本地域からは、小学校4年生が環境学習で浦安市を訪問したり、農家が浦安市のイベントに参加し倉渚の物産を販売しています。

ウ 民間企業等との交流

企業の活動では、平成17年から三洋電機が倉渚地域内の県有林約2haで『森を守る』国内ワークキャンプ「三洋の森」を開設し、森林整備を通して自然環境の重要性を再認識する活動を行なっています。

エ 農業による都市農村交流

遊休農地解消と過疎からの脱却を目指し、平成3年に特定農地貸付法に基づく全国初の市民農園「クラインガルテン」を開設しました。都市の子供を持つ若い世代の家族や高齢者等が、農地を求め訪れており、収穫祭等では、地域住民との交流を図っています。

その時期からＩターン者の農業への参入があり、現在までに約30世帯の新規就農者が有機農業等に取り組んでいます。

また、団塊世代の田舎暮らしへのニーズが高まっていることから、今年度は東吾妻町と共同で県の「ぐんまの山村回帰支援事業」のモデル地域の指定を受け、榛名山周辺交流居住推進協議会を設立し、受け入れ体制の整備を検討していきます。

2 倉淵地域の課題

(1) 過疎化・少子高齢化による地域活力の低下

倉淵地域の人口は年々減少し、昭和30年から平成17年までの50年間で約47%減少しています。一方、世帯数は約6.4%の減少にとどまっていますが、1世帯あたりの人数は、5.3人から3.0人と減少しています。

年齢別人口構成比を昭和30年と比べると、年少人口は26.4%減少し、逆に老年人口は26.0%の増加が見られ、人口が減少する中で少子高齢化が進行し、高崎市の地域別でも、最も少子高齢化が進んでいる地域でもあります。

倉淵地域の年齢別人口構成比の推移

調査年	昭和30年 (1955年)	昭和40年 (1965年)	昭和50年 (1975年)	昭和60年 (1985年)	平成7年 (1995年)	平成17年 (2005年)
総数	8,351 (100.0)	6,944 (100.0)	6,237 (100.0)	5,732 (100.0)	5,176 (100.0)	4,427 (100.0)
0～14歳	3,108 (37.2)	2,074 (29.9)	1,335 (21.4)	1,087 (19.0)	749 (14.5)	477 (10.8)
15～64歳	4,700 (56.3)	4,195 (60.4)	4,098 (65.7)	3,700 (64.5)	3,109 (60.1)	2,513 (56.7)
うち15～29歳	1,861 (22.3)	1,272 (18.3)	885 (14.2)	740 (12.9)	652 (12.6)	587 (13.3)
65歳以上	543 (6.5)	675 (9.7)	804 (12.9)	945 (16.5)	1,318 (25.5)	1,437 (32.5)
世帯数	1,563	1,537	1,565	1,498	1,511	1,463

[資料：国勢調査]

高崎市の地域別年齢別人口構成比

項目	倉淵地域	高崎地域	箕郷地域	群馬地域	新町地域	榛名地域	合計
0～14歳	10.8%	14.6%	14.3%	15.7%	13.5%	13.6%	14.5%
15～64歳	56.7%	66.2%	65.9%	67.1%	64.1%	62.6%	65.9%
65歳以上	32.5%	19.2%	19.8%	17.2%	22.4%	23.8%	19.6%

[資料：平成17年国勢調査]

(2) 産業の衰退

ア 農業

農業においては、15歳以上の就業者数に占める農業従事者の割合が、昭和30年には64.6%でしたが、昭和60年には30.9%、平成17年には25.9%まで落ち込み、農業から他産業への移行が進んでいます。

専業農家は、昭和40年には212世帯であったが、平成17年には101世帯と担い手が減少し、従事者も高齢化傾向にあり、高齢者専業農家の増加が窺えます。

耕作放棄地の状況を農業センサスで見ると、1985年は14haでしたが、年々増加し、2006年には169haまで拡大しています。

農業粗生産額は増加を続けてきましたが、平成7年の27.1億円をピークに減少に転じています。単位あたりの生産農業所得も高崎市内の他地域と比較し低い状況にあります。

昭和30年当初、米麦・養畜養蚕の経営から、野菜・こんにゃく・菌茸類を中心とした経営に変わり、現在はパイプハウスを利用し、トマトやホウレン草等を栽培する集約的農業が増えています。

全国初のクラインガルテンの開設や、地域内に有機農業グループが誕生するなど新しい取り組みが進んでおり、平成元年以降、その数は約40名となっています。

消費者と連携した農業や観光農業の振興、農産物加工等の工房づくりなど地場産業の振興や、耕作放棄地の発生を防止し公益的機能を確保するための支援策が求められています。

倉淵地域の専業別農家数の推移

(単位：戸、%)

区分	昭和40年 (1965年)	昭和50年 (1975年)	昭和60年 (1985年)	平成7年 (1995年)	平成17年 (2005年)
専業	212 (19.4)	76 (7.5)	112 (12.2)	129 (16.0)	101 (15.2)
第1種兼業	431 (39.5)	320 (31.8)	192 (20.9)	134 (16.6)	47 (7.1)
第2種兼業	449 (41.1)	612 (60.7)	615 (66.9)	545 (67.4)	517 (77.7)
計	1,092 (100.0)	1,008 (100.0)	919 (100.0)	808 (100.0)	665 (100.0)

注) 2005年の自給的農家は第2種兼業農家に合算した。

[資料：農林業センサス]

高崎市の地域別専兼業別農家数の推移

(単位：戸、%)

地域名	倉淵地域	高崎地域	箕郷地域	群馬地域	新町地域	榛名地域	合計
専業	101 (15.2)	468 (13.3)	114 (11.8)	145 (15.5)	9 (12.8)	250 (18.2)	1,087 (14.4)
第1種兼業	47 (7.1)	80 (2.3)	92 (9.5)	91 (9.7)	6 (8.6)	173 (12.6)	489 (6.5)
第2種兼業	195 (29.3)	1,523 (43.3)	422 (43.8)	281 (30.0)	20 (28.6)	486 (35.5)	2,927 (38.9)
自給的農家	322 (48.4)	1,447 (41.1)	336 (34.9)	419 (44.8)	35 (50.0)	462 (33.7)	3,021 (40.2)
計	665 (100.0)	3,518 (100.0)	964 (100.0)	936 (100.0)	70 (100.0)	1,371 (100.0)	7,524 (100.0)

[資料：2005年農林業センサス]

倉淵地域の農業粗生産額等の推移

調査年	昭和48～49年 (1973～74年)	昭和58～59年 (1983～84年)	平成5～6年 (1993～94年)	平成15～16年 (2003～04年)
農業粗生産額	1,339 百万円	2,144 百万円	2,464 百万円	1,960 百万円
耕地10a当たり生産農業所得	94 千円	92 千円	91 千円	75 千円
農業専従者当たり生産農業所得	581 千円	592 千円	776 千円	870 千円

[資料：群馬農林水産統計年報]

高崎市の地域別農業粗生産額等

地域名	倉淵地域	高崎地域	箕郷地域	群馬地域	新町地域	榛名地域	
農業粗生産額	196 千万円	401 千万円	343 千万円	157 千万円	6 千万円	598 千万円	
耕地10a当たり生産農業所得	75 千円	80 千円	94 千円	69 千円	79 千円	136 千円	
農業専従者当たり生産農業所得	870 千円	952 千円	1,109千円	746 千円	708 千円	1,489千円	
上位の種類	1	鶏	米	鶏	野菜	野菜	果実
	2	野菜	野菜	野菜	豚	米	乳用牛
	3	米	麦	肉用牛	乳用牛	果実	鶏

[資料：第51次群馬農林水産統計年報]

イ 林業

林業においては、倉淵地域の森林面積10,880haのうち7,743ha(71.2%)が民有林で、杉・檜を中心とした造林・保育が長年行なわれており、人工林率は62.3%と高い値になっています。しかし、林家のうち平成12年の農林業センサスでは76%が5ha未満の零細規模経営となっています。

特用林産物はナメコやシイタケの菌茸類が448t生産されています。

林業従事者の高齢化と木材価格の低迷等により、手入れが行き届かず放置林が拡大していますが、森林による国土の保全・水源涵養などの環境機能や、生活に潤いを与える景観機能、保健・レクリエーション・観光・教育の場としての利用についての国民の関心が高まっており、引き続き森林の保全・整備を図るとともに観光と連携した林産物の振興を図る必要があります。

倉淵地域の保有山林規模別林家数の推移

(単位：戸、%)

区分	林家数 合計	5h 未満	5 ~10ha	10 ~20ha	20 ~30ha	30 ~50ha	50ha 以上
昭和45年 (1970年)	468 (100.0)	371 (79.3)	60 (12.8)	22 (4.7)	8 (1.7)	4 (0.9)	3 (0.6)
平成2年 (1990年)	564 (100.0)	471 (83.5)	52 (9.2)	27 (4.8)	9 (1.6)	3 (0.5)	2 (0.4)
平成12年 (2000年)	313 (100.0)	239 (76.3)	39 (12.5)	23 (7.3)	6 (1.9)	3 (1.0)	3 (1.0)
平成17年 (2005年)	87 (100.0)	27 (31.1)	25 (28.8)	20 (23.0)	5 (5.7)	5 (5.7)	5 (5.7)

[資料：農林業センサス]

倉淵地域の特用林産物の生産の推移

(単位：kg)

区分	昭和55年 (1980年)	昭和60年 (1985年)	平成2年 (1990年)	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)
ナメコ	468,200	605,400	574,000	415,400	426,200
シイタケ	145,900	128,600	137,100	75,000	21,900

[資料：農林業センサス(昭和55年、平成2年)、農協調査資料(昭和60年、平成7年、平成12年)]

ウ 工業

工業は、古くから製材・木工業が中心でしたが、昭和35年以降、電気部品や合成樹脂加工などの工場が進出したものの、平成3年をピークに事業所数、従業者数とも減少しています。本地域は地勢的に不利な立地条件であり工場誘致は困難な状況にあり、既存企業の経営基盤強化と、地域資源や人材を活かした新たな産業づくりが課題となっています。

倉淵地域の工業事業所数、従業者数と製造品出荷額等の推移

(単位：ヶ所、人、百万円)

区分	昭和55年 (1980年)	昭和60年 (1985年)	平成2年 (1990年)	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成15年 (2003年)
事業所数	30	20	24	21	19	14
従業者数	443	425	474	349	387	231
製造品出荷額等	7,779	9,500	9,754	6,305	7,407	2,966

[資料：工業統計調査]

高崎市の地域別工業事業所数、従業者数と製造品出荷額等の推移（単位：ヶ所、人、百万円）

地域名	倉渕地域	高崎地域	箕郷地域	群馬地域	新町地域	榛名地域
事業所数	14	563	60	102	30	81
従業員数	231	18,256	928	2,533	989	2,286
製造品出荷額等	2,966	567,951	14,456	55,765	38,545	40,468

〔資料：平成15年工業統計調査〕

工 商 業

倉渕地域の商店数は、昭和51年の111店舗をピークに減少を続けています。地域外通勤者の増加や自家用車の普及により、地域購買力が近隣の大店に吸収される傾向が強まるなど、経営環境は厳しい状況にあり、高齢者や観光客の買い物の場として、商業の振興を図ることが求められています。

倉渕地域の商店数、従業者数と商品販売額の推移（卸売・小売業）

（単位：店、人、百万円）

区分	昭和54年 (1979年)	昭和60年 (1985年)	平成3年 (1991年)	平成9年 (1997年)	平成11年 (1999年)	平成14年 (2002年)
商店数	97	88	85	71	68	64
従業員数	208	232	230	199	194	177
商品販売額等	1,899	2,491	2,843	2,753	2,829	1,946

〔資料：商業統計調査〕

高崎市の地域別の商店数、従業者数と商品販売額の推移（卸売・小売業）

（単位：ヶ所、人、百万円）

地域名	倉渕地域	高崎地域	箕郷地域	群馬地域	新町地域	榛名地域
商店数	64	4,089	149	299	194	222
従業員数	177	30,638	766	2,256	854	1,200
商品販売額等	1,946	1,341,619	11,817	62,342	11,099	17,319

〔資料：平成14年商業統計調査〕

オ 倉渕地域の資源を活かした個性あるまちづくり

人口構成や産業の現状を見ても、倉渕地域は高崎市の各地域の中で数値が低い状況にあります。立地的にも市域の最西端に位置しており、中心市街地から一番離れた地域となっています。市域全体における多様な市民交流や行政サービスの均一化、統一的な安全対策等を確立することにより、新市の一体性を醸成するとともに地域の均衡ある発展が重要となっています。

倉淵地域は、烏川源流の清らかな水、角落山や杏ヶ岳をはじめとする緑深い山々など、豊かな自然環境と美しい景観を持ち、地域を訪れる人々や住民の生活に潤いや安らぎを与えています。渓谷や滝・登山などの自然資源、宿泊施設や温泉・キャンプ場などの観光資源、小栗上野介の史跡、道祖神などの歴史遺産としての資源、倉淵地域ゆかりの絵画や資料、安心して食べられる食材や加工品、地域で传承されている郷土芸能や民俗行事など、個々の魅力はありますが、それらを他の資源と有機的に結び付けた活用が図られていない状況にあります。

そのため、各資源を結びつけ、地域全体を自然と歴史・文化のミュージアムとして捉え、滞在型の観光などを検討し提案できる組織の育成が求められています。

また、観光案内者の育成や他地域を含めた観光案内施設を整備し、通過点から目的地となるような恒常的な交流の推進と、住民参加による新たな特産品等の開発を積極的に行い、地域資源を活かした都市と農村の交流による地域全体の活性化を図る必要があります。



烏川源流の清らかな水の流れ

第3章 小栗の里整備事業の基本的方向

1 小栗の里を核とした倉淵地域の活性化

旧倉淵村の「小栗の里づくり事業」は、小栗上野介の史跡に着目し、知行地であった権田地区を中心に検討がなされてきましたが、新市建設計画における地域の均衡ある発展を現実のものとするため、倉淵地域の豊富な資源を有効的に活用し、「小栗の里」を代名詞として倉淵地域全体の活性化を目指します。

その方策として、歴史的文化遺産である小栗上野介関連史跡の保全とその周辺整備や、魅力ある資源を活用した観光・地場産業の振興、文化活動など総合的な地域づくりのための拠点となる施設の整備を進めます。

2 豊かな自然環境を活かした都市との交流

(1) 観光の振興

倉淵地域における魅力ある資源の体系化をはじめ、観光施設相互の連携、高齢者等が持っている豊富な知識と技を伝承できる体制づくりや、新たな魅力を創造し、それらの情報を積極的にPRすることにより、単なる通過点から目的地として訪れてもらえるような観光振興を目指します。

その方策として、倉淵地域内にあるクラインガルテン、はまゆう山荘、民間温泉施設、わらび平森林公園など、既存の観光施設と連携して情報を一元的に提供できる体制づくりや、観光資源を結ぶモデルコース等を設定し、地域内を散策しながら多くの魅力に触れられる仕組みづくりに努めます。

また、地域内に限らず、高崎市内の観光・文化・歴史関連施設とも連携を図り、高崎市全体の観光情報の玄関口となる体制を整備します。

さらに、県内外における小栗上野介ゆかりの地をはじめ、烏川の下流域との継続的な交流を促進します。

(2) 産業物産の振興

食の安心・安全を求め中、倉淵地域で生産されている有機低農薬野菜をはじめ、ナメコ・シイタケ等の林産物、生活研究グループ等を中心とした農産物加工品などは、地域外で開催される物産市などで人気が高まっています。

これらを高崎市全域で地産地消する仕組みづくりや、観光客をはじめとする都市住民になどに常時安定した供給ができる体制を整備し、農業従事者の生産意欲の向上と、高齢農業従事者の生きがい・やりがいを促進し、地域農業の推進を図ります。また、新たな特産品の開発やブランド化への取り組みを推進し、地場産業の活性化を目指します。

(3) 文化の振興

倉淵地域では、小栗上野介とその偉業を顕彰することを目的に、昭和28年に「小栗上野介顕彰会」が組織され、史実の研究、史跡の保存や記念行事及び機関誌等を発行するなど顕彰活動が行われています。このほか、蠟画の創始者である豊田一男画伯の作品展示や、文化協会を中心とする「やまなみ祭」など、多様な文化活動が行われており、これらが継続・発展していくことが倉淵地域の魅力を高めることとなります。

このため、公民館活動と連携して、小栗上野介顕彰事業をはじめ、文化活動への支援を行うとともに、小栗の里の拠点施設において、小栗上野介の関連資料や豊田一男画伯の美術作品等の展示を行い、市民や都市住民など誰でもが気軽に倉淵地域の文化に触れ、学び、交流できる環境整備を図り、地域文化の向上を目指します。

3 小栗の里を支える人の育成と情報ネットワークの構築

小栗上野介の生涯やその偉業について、生涯学習活動における市民講座や講演会などをはじめ、小・中学校、高校での授業、大学や企業における研究題材など、幅広い分野において、学ぶ題材とするよう関係機関へ協力を要請し、これらを通じて小栗上野介が志した“将来の日本を支えるような人材の育成”を目指します。

また、横須賀市をはじめとする倉淵地域以外の小栗上野介ゆかりの地との連携を図り、倉淵地域の魅力を伝える“人と情報のネットワーク”を構築します。

4 住民参加による事業の推進

小栗の里づくりは、拠点施設のみならず、倉淵地域全体の活性化を目指すためのものであり、行政と市民及び各種団体などが協働して、里の魅力を充実するための方策を考え、共に事業を進めていく仕組みづくりに努め、これらを通じてコミュニティの醸成と活力ある地域社会の形成を目指します。



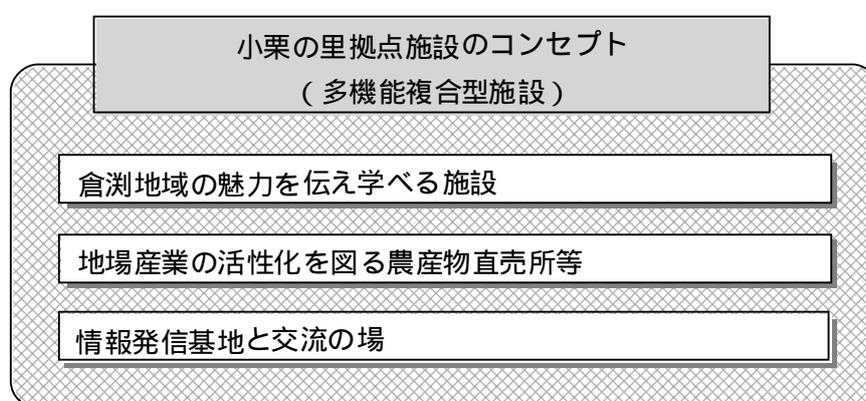
熊久保の道祖神

第4章 小栗の里づくりのための重点事業

1 拠点施設整備

(1) 施設整備に向けての基本方針

小栗の里整備事業の中核となる拠点施設の整備については、新市建設計画や高崎市第5次総合計画における地域別整備方針、小栗の里整備推進委員会による協議等を踏まえ、“倉淵地域の魅力を伝え学べる施設”、“地場産業の活性化を図る農産物直売所等”、“情報発信基地と交流の場”の機能を併せ持つ、多機能複合型の施設を整備し、倉淵地域の活性化を図り、新市建設計画で示す「都市の均衡ある発展」を目指します。



倉淵の魅力を伝え学べる施設

最近の観光客の動向は、有名な観光地を駆け足で巡る旅から、地元住民との交流や体験を楽しみ、その地域にしかないテーマやストーリーをじっくり学び楽しむ傾向にあり、そのニーズも多様化しています。

そこで、倉淵地域のもつ豊かな自然環境や歴史、文化、産業、景観などの様々な資源を観光と学習の題材として捉え、これらを体系化するとともに地域内にある既存の温泉・宿泊施設や体験施設と連携を図りながら、倉淵地域全体の魅力をPRし、リピーターを確保できる施設を整備します。

地場産業の活性化を図る農産物直売所等

倉淵地域における安心・安全な農林産物や、それらを原材料とした加工品など、食の魅力を直接伝えるとともに、適切な消費者ニーズを把握し、「小栗上野介」をモチーフとした“小栗ブランド”の確立を図るための施設として、農産物等の直売所を整備します。

さらに、地産地消の観点と農産物の消費を拡大していくために、倉淵地域の食文化をPRするとともに体験できる農家レストランの整備も検討していきます。

これらの施設を拠点として、地域内外で行われている物産市への継続的な参加や、特産物の安定的な供給体制づくり、農産物加工品をはじめとする商品開発、新たな販売ルートの開拓などを促進し、地場産業全体の活性化を図ります。

情報発信と交流の場

多様化する観光ニーズに対応し、都市住民を倉渚地域へ誘導するため、地域内の温泉・宿泊施設や農業体験施設、農業生産者等との連携を図り、情報の共有化と観光イベント情報などを一元的に提供できる機能を整備します。

また、ここでは、倉渚地域に限らず、高崎市全体の観光情報の提供が可能となるよう、関係機関との連携を図ります。

また、倉渚地域の魅力を都市住民に伝えるだけでなく、倉渚地域をはじめとする高崎市民が一つの目標に向かって協力しあうことで、新市としての一体感の醸成を図る場をつくります。さらに、市民と都市住民とがふれあうことにより、今まで日常化されていた倉渚の魅力を再認識し、倉渚地域に誇りを持ち、その良さを活かせる場をつくります。

(2) 基本方針の具体的なイメージ

ア 倉渚地域における資源の活用イメージ

倉渚地域には、他に誇れる宝として、幕末の偉人小栗上野介や蠟画の創始者豊田一男、道祖神など、歴史や文化的に価値の高いものや、豊かな自然環境、温泉、農産物、食文化など様々な資源があります。小栗の里の拠点施設整備にあたっては、これらの資源を体系化し、それぞれが持つ機能や魅力を高め、より“倉渚らしさ”が実感でき、それらを積極的にPRできるよう活用していきます。

資源	資源の内容	活用イメージ
水源	<p>烏川の流域では、生活の源である水道用水、農業・工業用水などへの利用や、河川敷は運動場・公園として利用され四季をとおして各種イベントが開催されています。</p> <p>また、近年では子供達の情操教育を目的にサケの稚魚を放流するなど、環境保全への学習活動も行われています。</p> <p>そのほか烏川は、江戸と上州を結ぶ物資と文化の運搬ルートとしても利用されており、歴史的な背景もあります。</p>	<p>烏川流域における川と人の関わり合いを見つめなおし、烏川とその水源地域の情報発信と学習する場を設け、下流域との地域連携を目指します。</p>

資源	資源の内容	活用イメージ
自然	<p>倉渚地域には、西に標高1,756.7mの浅間隠山（山頂部分は東吾妻町と長野原町の境界）をはじめ、烏川の水源地である鼻曲山、角落山など、北東には榛名山系の杏ヶ岳がそびえ、各頂上から、関東平野をはじめ、富士山や北アルプスなどが一望できるビューポイントがあります。</p> <p>また、川浦地区には広葉樹の自然林が多くあり、四季折々の景観をかもし出し、多くの動植物が生息しています。</p>	<p>倉渚地域が有する豊かな自然は都市住民にとっても貴重な財産です。この自然環境を保全していくため、市民や都市住民と共に考え、行動する仕組みづくりを検討していきます。</p>
温泉	<p>現在、4箇所の源泉とそれに付随した温泉施設があり、年間を通じて市民や観光客に利用されていますが、周辺市町村でも新しい温泉が開発され、利用者数は年々減少傾向にあります。温泉施設としては、市営の倉渚福祉センターを除く4箇所で、宿泊施設と日帰り利用ができ、収容人数も様々で、団体利用や個人利用など、多様なニーズに対応が可能です。</p>	<p>これらの温泉施設の利用率向上を図るため、各温泉施設との連携を図り、一元的に情報発信できる体制整備を検討していきます。</p>
道祖神	<p>倉渚地域は、道祖神の宝庫として知られ、平成13年には国民文化祭において道祖神フェスティバルを開催し、全国にその名を高めました。これを契機に、毎年道祖神めぐりを実施しており、多くの市民が参加する倉渚地域を代表するイベントとなっています。特に中学生ボランティアによる道祖神解説が好評を得ており、倉渚地域の文化を学び、都市の人たちと交流する貴重な体験の場所となっています。</p>	<p>道祖神は、小栗上野介とともに倉渚地域を代表する歴史的遺産として、既存の公民館事業と連携しながら、観光と学習の両面から活用を検討していきます。</p>
小栗上野介と関連史跡	<p>幕末の偉人小栗上野介は、高崎市をはじめ、日本を代表する歴史上の人物として知名度が高く、小栗の里のシンボルとして貴重な財産です。</p> <p>小栗上野介に関連する史跡は、倉渚地域以外に、高崎市内の下齋田をはじめ県内外にあります。</p> <p>小栗上野介のほか、倉渚地域を紹介するうえで、貴重な文化財や民俗資料があります。</p>	<p>小栗上野介とその偉業を紹介し、正しい歴史認識を促すため、写真パネルや関連資料をはじめ、倉渚地域の歴史・民俗資料などをテーマごとに展示、学習できるスペースを設け小栗の里のシンボルとなるよう活用を検討します。</p>

資源	資源の内容	活用イメージ
豊田一男画伯美術作品	<p>蠟画の創始者で知られる豊田一男画伯は、本籍地である倉渚村で幼少の頃過した後、旧高崎市内に移り住み、美術と詩の世界でその道を究められました。平成元年に彼は80歳でこの世を去りましたが、蠟画を中心に多くの作品を残し、平成9年には、旧倉渚村がご遺族から212点の作品の寄贈を受け、毎年その一部を公開しています。</p>	<p>多くの方々から倉渚地域にゆかりのある彼の作品展示を望む声があると同時に、毎年実施している作品展には倉渚地域内外から多くの来場者があり、集客への期待がもたれています</p>
農林産物等の特産品	<p>倉渚地域では、食の安全・安心に配慮した有機野菜やミョウガ、トマト、ほうれん草、倉渚産米など、多くの農産物と、ナメコ、椎茸、舞茸などの特用林産物のなどの生産が盛んです。</p> <p>また、これらを素材とした食文化や、加工品など、倉渚地域には新鮮で安心できる食材がたくさんあります</p>	<p>地元の農林産物や加工品等の特産物直売所を整備し、倉渚の“食”をPRするとともに、消費者からナマの声を聞き、付加価値を高めるような商品開発と新たなブランド化が期待できます。</p> <p>また、地元の食材を使い、ここでしか味わうことができない倉渚地域に伝わる昔ながらのメニューを提供することで、新たな人を引き付けることも期待できます</p>



倉渚の農林産物



相間川温泉ふれあい館・露天風呂

イ 施設の基本的イメージ

小栗の里整備事業における拠点施設は、倉淵らしさを表現し、その情報を都市に向かって発信し、都市住民との交流によって地域の活性化を目指すための多機能・複合施設となるよう整備を進めます。

整備すべき機能		整備する施設（機能）のイメージ
倉淵の魅力を伝え学べる施設	自然や景観を紹介するスペース	倉淵地域が有する豊かな自然環境や景観、貴重な水源等を紹介し、これらを保全していくための学習機能を兼ね備えたビジターセンター的なスペースの整備を検討していきます。
	歴史・民俗資料展示スペース	小栗上野介に関わる学術的な資料や貴重な遺品等については、菩提寺である東善寺に集約されており、小栗公の情報発信を行う中核となっています。そのため、ここでは東善寺と連携を図り、それを補完する機能として、写真パネルの展示や映像システムによる紹介、関連史跡とモデルコースの紹介、関連図書などの資料閲覧できるスペースの整備を検討していきます。 また、倉淵地域に残る歴史上の伝説や文化財等を紹介するスペースも併せて検討していきます。
	道祖神の紹介スペース	倉淵地域を代表する道祖神については、既にいくつかの周遊コースが設定されています。ここでは、そのコース紹介と代表的なレプリカや写真パネル等で道祖神を紹介するスペースの整備を検討していきます。
	豊田一男画伯美術品展示スペース	高崎市では、豊田一男画伯が描いた蠟画や油絵、水彩画をはじめ、これ等を描くための基となるデッサンや、詩集などを活用し、彼が表現したかった環境問題、平和への願い、そしてこよなく愛した群馬の山々などのテーマを設定して展示できるスペースを設けます。
地場産業の活性化を図る農産物直売所等	農産物直売所・物産施設	倉淵地域の農産物や特産品などを直接供給する施設を整備します。 ここでは、地元産の商品の安心・安全性を伝えるため、単に商品を並べるだけではなく、消費者と生産者の交流が生まれるシステムづくりを検討していきます。 また、直売所は、豊富な品揃えが必要となりますので、倉淵地域のほか、高崎市内の特産品の展示販売も併せて検討していきます。
	農家レストラン	倉淵らしさを強調し、ゆったりした雰囲気の中で、地元産の食材を使い、昔ながらの郷土料理と新しいメニューとが融合し、訪れる人に倉淵の食の良さを満喫していただけるレストランの整備を検討します。 このレストランは、“ここでなければ食することができない”という特化したものを検討していきます。

整備すべき機能	整備する施設（機能）のイメージ
情報発信と交流の場	<p>観光案内所</p> <p>訪れる人々へのもてなしの心を大切に、個々のニーズに応じたきめ細やかな対応が図れる“小栗の里のエントランス”として倉淵地域をはじめ、高崎市全体の観光・イベント情報をタイムリーに提供するとともに、行政サービスなどの情報も提供する総合窓口的な機能の整備を検討していきます。</p>
	<p>交流の場（住民寄合の場）</p> <p>地域コミュニティー施設として、市民が気軽に利用できる集会施設や研修施設の整備を検討します。</p> <p>また、地域内の生涯学習の拠点である倉淵公民館と連携し、郷土料理や伝統芸能、文化活動などの体験実習ができるスペースの整備を検討していきます。</p>
	<p>道の駅機能</p> <p>車を使用する観光客は、休憩の場、買い物場、道路交通情報、観光情報、そして食事の場を求めており、道の駅はそんな観光ニーズを満たす目的地となっています。</p> <p>倉淵地域は、首都圏から関越自動車道を利用して、草津や志賀高原へ通じる観光ルートの中継点に位置するという優位性があります。</p> <p>このため、小栗の里の拠点施設のイメージを具体化することで、休息・食事・買い物・観光情報を提供する機能は満たされます。</p> <p>そこで、より一層、施設への集客を図るために、道の駅として必要な大型車両をはじめとする駐車場や24時間利用可能なトイレ、道路情報の提供など、その機能の整備を検討していきます。</p>
施設整備にあって配慮する点	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインに対応し、高齢者から子どもまで幅広く利用しやすい施設とします。 ・小栗上野介をシンボルとした歴史性に配慮します。 ・周辺の環境との調和を図ります。 ・省エネ、ゴミの減量化に配慮します。 ・国道406号からの安全な導入を関係機関と調整し決定します。 ・地域の既存施設との競合性を避けるため、連携を図ります。 ・各施設の規模決定にあたっては、各種基準に照らすとともにワークショップを開催して関係者と充分調整し、過大にならないものとします。 ・災害時にも有効的に機能するような役割を持つ施設内容を検討していきます。

ウ 住民参加による施設の運営

小栗の里づくりの拠点施設は、公共性が高く、同時に地域振興という経済効果を目指す施設です。事業の採算性を確保するための民間の活力、経営ノウハウの導入など、公共事業の展開とともに、営利事業の展開が不可欠となります。

各種団体を対象にした「小栗の里整備事業基本構想「骨子」(案)とりまとめのためのアンケート結果」では、多くの団体が物産品の販売に参加を希望しているほか、物産市での販売組織も新たに誕生しました。

事務事業の効率性の確保、サービス内容の充実、民間経営ノウハウの活用等の観点から、これらの団体や生産者組織の育成を図り、施設の指定管理を受けられる新たな施設運営の組織化を進めていきます。

なお、地場産品の直売は、生産者の顔が見えること、一定の基準を満たせば誰でも販売できることなどに配慮していきます。

(3) 拠点施設整備の計画条件(整備すべき場所の要件)

ア 選定の条件

拠点施設整備にあたっては、施設の基本的イメージを基に、今後、具体的な内容検討を行い、必要な規模・面積を決定し、それを充足する適切な場所の選定が望まれます。ここでは、基本的な考えとして、各種団体を対象にした「小栗の里整備事業基本構想「骨子」(案)とりまとめのためのアンケート結果」から、「国道406号沿いの水沼橋周辺から権田の交差点までの間」で、以下の条件を充足することを選定条件として設定します。

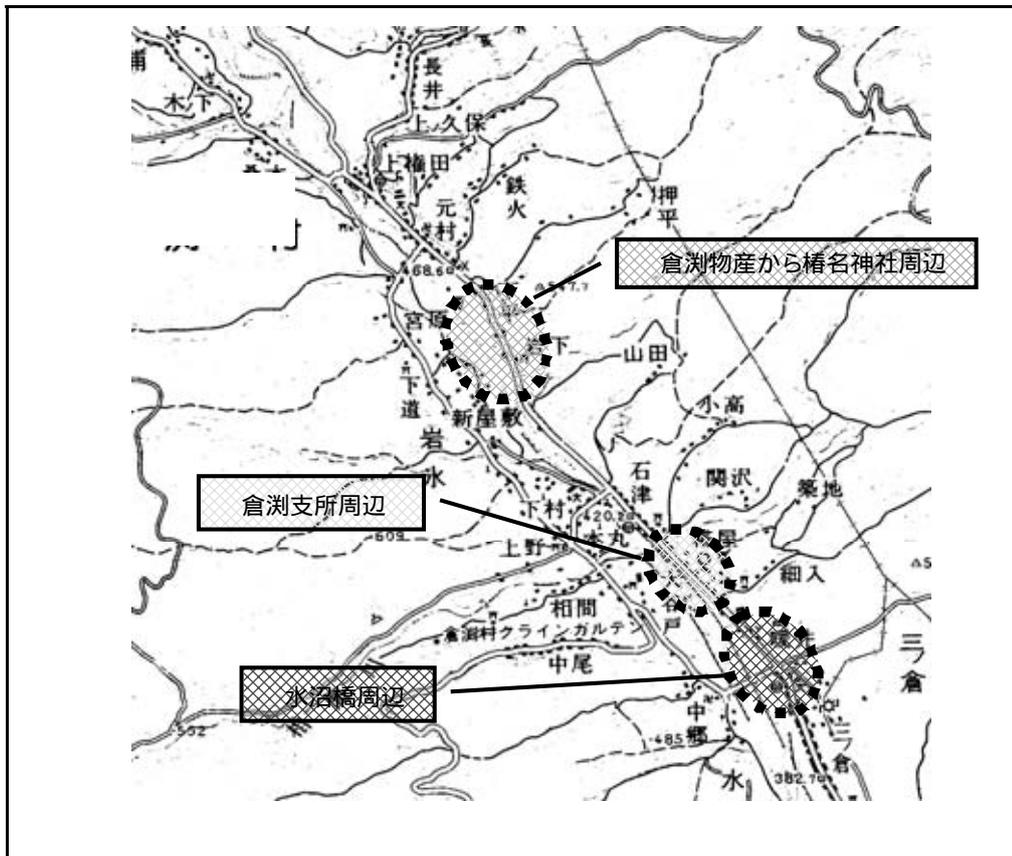
なお、早期実現を図るために、公共施設の空きスペースの活用やまちづくり市民会議から提言内容も含め検討します。

<p>国道406号から整備する拠点施設へのアクセスが容易で安全なこと 自家用車だけでなく公共交通機関でのアクセスが容易なこと。 小栗上野介関連史跡や道祖神めぐりなどのへの拠点となりやすいこと。 拠点施設を補完する他の施設が周辺にあり、連携が図りやすいこと。</p>
--

イ 候補地の選定

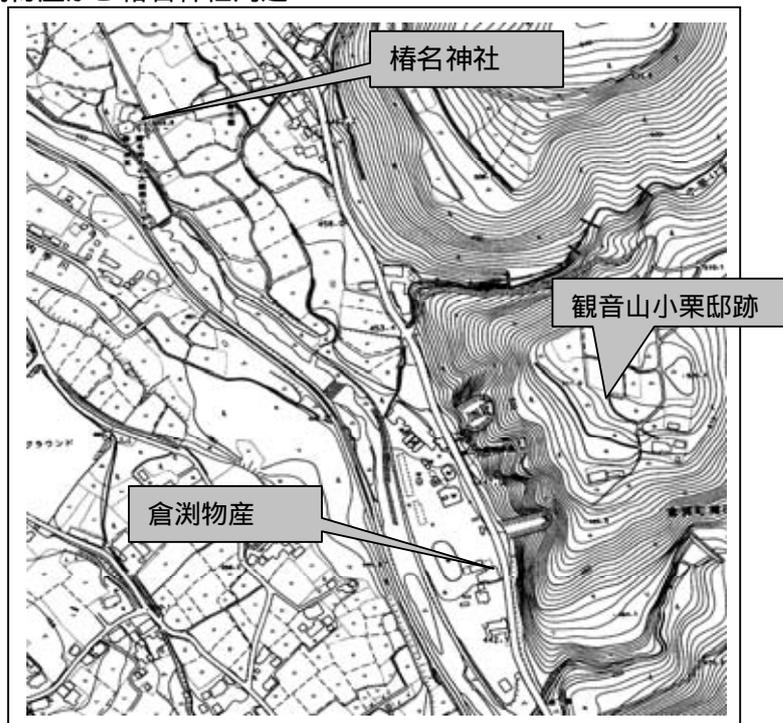
施設整備の候補地の選定にあたっては、小栗の里整備推進委員会の意見やアンケートの結果から、回答の多かった 倉淵物産から椿名神社周辺、 倉淵支所周辺、 水沼橋周辺の3箇所から、関係機関、関係団体とワークショップ等を通じて選定条件を満たす場所の特定を検討して行きます。

ウ 候補地の位置

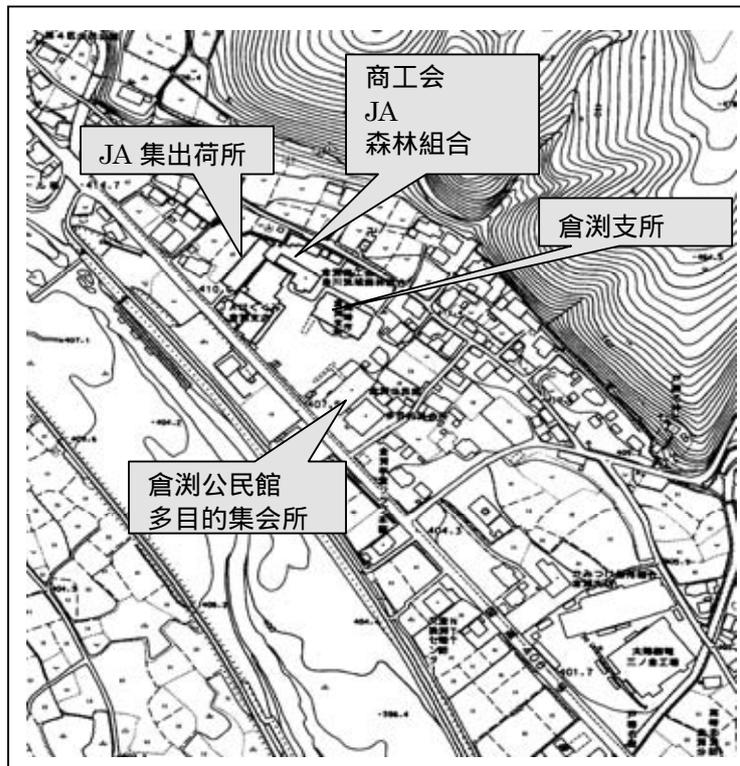


エ 各候補地の状況

倉澗物産から椿名神社周辺



倉渚支所周辺



水沼橋周辺



オ 条件比較

条 件		倉渚物産から椿名神社までの間	倉渚支所周辺	水沼橋周辺
基本的事項	中心地からの距離	1 k m	中心地に位置する	5 0 0 m
	候補地の面積	比各的まとまった土地があり自由な設計が可	公共施設空きスペース利用が可能、規模が制限される。	まとまった土地があり自由な計画が可
	施設整備形態	新設造成を伴う	増改築	新設大規模な造成を伴う
	用地の確保	全て個人所有で土地確保は難航が予想される。	不足する部分のみ確保が必要で、取得は容易と思われる。	東小学校を除くと民有地で土地確保の難航が予想される。
自然条件	地形（平坦・傾斜地）	西から東に向かった傾斜地	比較的平坦	比較的平坦地であるが、国道から烏川に向かって傾斜がある、
	景観	烏川のせせらぎが良好	烏川と田園風景が良好	烏川と田園風景が良好
	日当たり	日照時間が短い	良好	良好
	排水	良好	良好	良好
	過去における災害の有無	大規模な災害はなし	一部昭和10年の水害で流失	一部昭和10年の水害で流失
社会的条件	道路網	国道406号のみ	国道406号のみ	国道406号、県道渋川松井田線の主要道路が交差
	敷地へのアプローチ	国道406号から直接進入が可、カーブが多く見通しが悪い。	国道406号から直接進入容易、直線で見通しが良い	比較的見通しが良く直線で進入は容易
	公共交通	群馬バス（岩氷経由は通過なし）	群馬バス、ぐるりん	群馬バス、ぐるりん
	周辺公共施設の有無	中央小学校	倉渚支所、倉渚公民館、多目的集会所、JAはぐくみ、倉渚商工会、学童施設	東小学校、郵便局、特別養護老人ホーム
	小栗上野介関連史跡との位置	小栗上野介父子の墓 東善寺 観音山小栗邸跡	と の中間として活用できる。	小栗上野介終焉の地道祖神公園
	土地利用規制	農業振興地域 農用地区域	農業振興地域 白地	農業振興地域 農用地区域

2 小栗上野介顕彰事業への支援

(1) 小栗まつりへの支援

小栗上野介顕彰会では、小栗公の偉業を偲びその事蹟を顕彰することを目的に毎年「小栗まつり」を開催しており、倉淵地域の市民はもとより県内外から多くの人々が訪れ、小栗公に関する情報発信と都市住民との交流の場となっています。

また、この運営は、顕彰会の会員をはじめ多くのボランティアが支えており、倉淵地域での小栗公を核とした地域振興の一端を担っています。

今後は、この事業との連携を図り、小栗の里におけるメインのソフト事業として位置付け、小栗公の顕彰をはじめ、関連史跡や特産品などの資源を活用して都市住民との交流がさらに発展、充実するよう積極的に支援を行っていきます。



小栗まつり（墓前にて・東善寺）

(2) 講演会の開催支援

平成18年の市町村合併後、小栗上野介は、倉淵地域ゆかりの人物から高崎市ゆかりの人物となりました。しかし、その知名度と小栗公への理解度は必ずしも高いものとは言えず、多くの市民に小栗公を理解していただくことが必要です。

このため、生涯学習や学校教育の場において、小栗公に関わる講演会などを開催するとともに、顕彰会が自主的に行っている講演会の開催についても支援を行っていきます。



小栗まつり（講演会・倉淵体育館）

(3) パネル展の開催支援

小栗公の人物とその功績をより多くの方々に紹介し、史実に基づいた正しい歴史認識と理解を深めていただくことを目的に、県内外で写真パネルや関係資料の展示をしてきました。また、本年4月には、小栗公生誕の地である東京駿河台の明治大学博物館において地元自治会との共催により「小栗上野介企画展」を開催し、“東京の小栗”としてデビューすることになります。このように、県内外の多くの



高崎ゆかりの人物展（高崎シティギャラリー）

人々に小栗上野介と高崎市の情報を発信し理解を深めていただくために、倉渚支所で保管している写真パネルの貸し出しやパネル展への経済支援を行っていきます。

(4) パンフレットの作成

小栗上野介や高崎市を情報発信するために、パンフレットは有効な手段となります。また、小栗の里を訪れる人たちにとって、パンフレットは立ち寄る場所や地場産品などを選定するための重要な情報源となります。

このため、小栗情報や倉渚地域の観光ポイント、地場産品、史跡や文化財のルート情報などを網羅した新たなパンフレットを作成し情報提供に努めます。



小栗上野介終焉の地（顕彰慰霊碑）



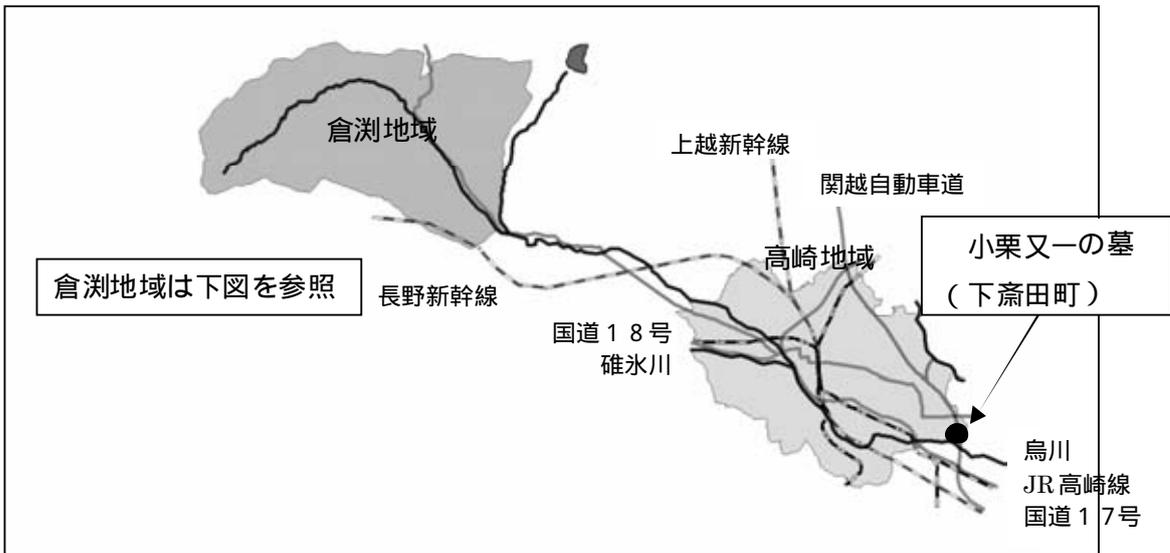
姉妹観音

3 小栗上野介関連史跡等の整備

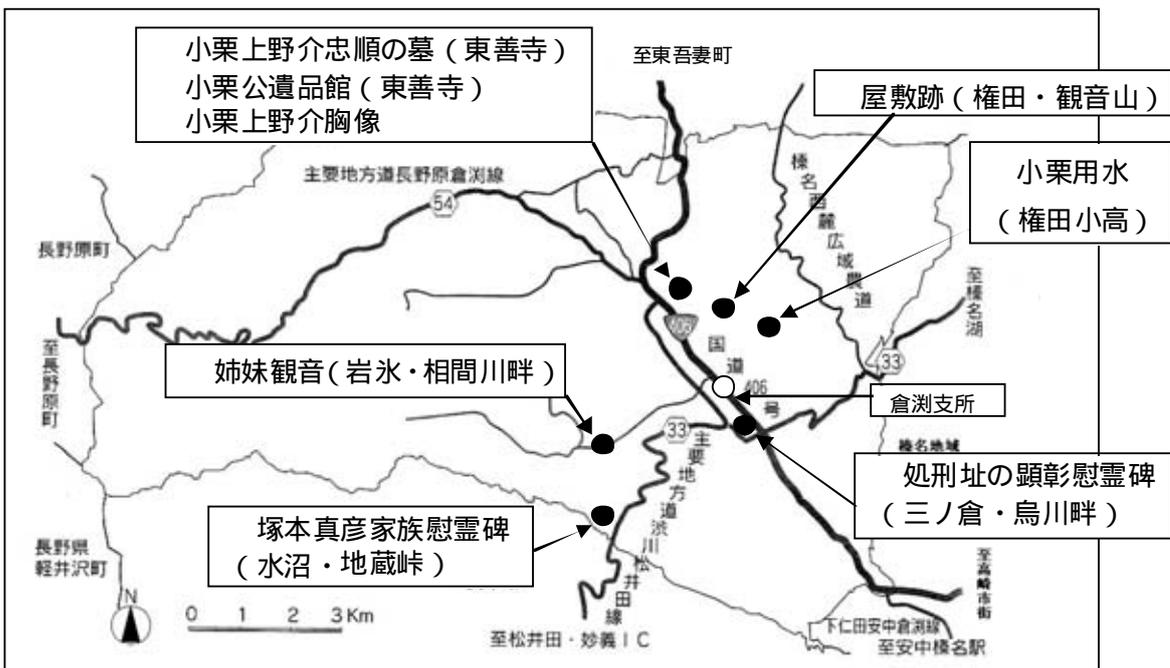
(1) 史跡の考え方

小栗上野介は幕府の重鎮として広く活躍していたことから、関連する史跡は高崎市内のみならず、県内外に広く点在しています。小栗上野介を正しく理解するためには、各地域に点在する史跡についても広く周知をしていくことが必要です。しかし、小栗の里づくりの観点から、この計画では、高崎市内に点在している関連史跡について、保存と観光の両面から整備を検討していきます。

高崎市における小栗上野介関連史跡



倉渚地域内の小栗上野介関連史跡



【史跡の概要】

史 跡	史 跡 の 概 要
<p>小栗上野介の墓 (権田元村地内)</p>	<p>小栗上野介の関連史跡として最も代表的なものは、東善寺境内にある小栗上野介の墓で昭和28年に群馬県指定史跡となっています。管理は東善寺が良好な管理・保全に努めています。また、訪れる人も多くなっており、案内看板などの誘導サインの整備が望まれています。</p>
<p>観音山小栗邸跡地 (権田観音山地内)</p>	<p>小栗上野介が権田村に隠棲し、地域の若者の教育や養蚕などの産業を広めようとして屋敷の建築を進めましたが、この行為が西軍から「陣屋嚴重に構え」と追討の口実となり、無念にも志半ばで非業な最後を遂げたため、造成をしたのみで完成には至りませんでした。現在でも、屋敷跡には当時の基礎石が残されており、高崎市指定史跡となっています。</p> <p>この場所は、小栗上野介にとってかけがえのない場所であり、また景観もよく眼下には権田地区や対岸の岩氷地区が一望できる絶景のビューポイントでもありますが、進入路が狭小・急峻なうえ駐車場がなく、国道406号からのアプローチが課題となっています。</p>
<p>小栗上野介終焉の地(顕彰慰霊碑) (三ノ倉暖井地内)</p>	<p>慶応4年閏4月5日、小栗上野介と家臣3人は捕縛され何の取り調べもなく、翌日水沼河原において斬首されました。上野介42歳。終焉の地には、「偉人小栗上野介罪なくして此処に斬らる」と刻まれた碑(顕彰慰霊碑)が、昭和7年地元の有志等によって建てられました。</p> <p>現在は、高崎市指定史跡になっており、小栗上野介を顕彰するうえでシンボリックな史跡となっています。交通の便も良いことから自家用車で訪れる人も多くなっていますが、周辺には駐車場や訪れる人が休息する施設も無いことから、これらの整備が望まれています。</p>
<p>姉妹観音 (岩氷尾根山地内)</p>	<p>小栗上野介の用人で、従者として渡米・世界一周し、小栗とともに江戸から権田に移住した塚本真彦の家族が、西軍の追っ手から逃れる際に共倒れを避けるため、2人の姉妹を相間川「通らず」の川底に沈め、乳飲み子の嫡男を背負い無事脱出したという悲話から、このほとりに姉妹を慰霊するため姉妹観音が建てられました。</p> <p>ここは、相間川渓谷の中で最も美しい景観を有しており、地元の文化協会では毎年、「とおらずの流し舟」を開催し、姉妹の悲劇を偲びながら俳句や短歌を披講するなど、文化振興の面からも利用されており、相間川渓谷の景観と相まった周辺整備が望まれます。</p>

史 跡	史 跡 の 概 要
地蔵峠の殉難の碑 (水沼地蔵峠国有林地内)	<p>塚本真彦一家6人(母・妻・子)は榑田から七日市への脱出にあたり、母と妻の二組に分かれ行動しましたが、惜しくも母と長女は水沼の山中で道を失い力尽きて遂に自害しました。実際に自害した場所は地蔵峠から相間川へ傾斜する山中の谷あいであったため、県道渋川松井田線地蔵峠の西方道端の丘上に昭和57年小栗上野介顕彰会により殉難の碑が建てられました。</p> <p>この周辺及び実際の史跡は、国有林として管理されており、アプローチの方法がない現状から、関係機関と調整して遊歩道等の整備が必要となります。</p>
小高用水 (榑田小高地区内)	<p>水利に恵まれず、水田耕作に困っていた榑田地区内の小高地区の村人のために、小栗上野介が慶応4(1868)年4月に尾根むこうの稲瀬沢を検分し、器械測量で用水路の場所を決め、村人の掘削により完成した延長1,260mの用水路で、現在も利用されています。用水路としての機能を維持し、また史跡の観点から保存を検討する必要があります。</p>
小栗又一の墓 (下斎田町)	<p>慶応4年(1868)年閏4月7日、高崎城内で斬首された又一主従4人の遺体は、領地下斎田村(現在の下斎田町)に葬られました。上野介父子の首級は首実検のため館林の総督府へ届けられたが一年後に首級を盗み出し、又一の首級は下斎田の胴体と一緒に埋葬されました。倉淵地域の史跡と同様に案内看板の設置が望まれる。</p>

(2) 史跡周辺の整備

小栗上野介に関わる史跡は倉淵地域内に点在しており、徒歩での散策は距離的にもかなり困難な状況にあります。これらの史跡を効果的に活用するために、車等でのアプローチを容易にするためのルートや道路、遊歩道、駐車場、休憩施設等の周辺整備を進めるとともに、文化財の案内看板や説明板等の更新や新設、ルートマップや文化財紹介パンフレットを作成して広くPRしていきます。

さらに、倉淵地域以外における史跡については、案内看板や説明看板の設置を検討するほか、県内外に点在している史跡についても広く紹介するとともに、関係自治体との連携強化に努め、小栗上野介を題材とした都市農村交流を促進します。

(3) 史跡の統一的な案内看板の設置

倉淵地域には、「小栗上野介関連史跡や道祖神などの貴重な文化財があるが、他の地域に比べ案内看板がなく不便である。」というような指摘をいただいています。このため、平成19年度において、群馬県の「名所・旧跡案内板等リニューアル事業」により、一部案内看板の整備を実施しました。

しかし、点在する史跡全体を案内するところまでは至っておらず、今後、史跡の整備と併せて計画的に案内看板の整備を進めます。

資 料 編

小栗の里整備事業

基本構想骨子（案）策定

各種団体意向調査集計結果

高 崎 市

小栗の里整備推進委員会

調査の概要

【意向調査の趣旨】

この意向調査は、新市建設計画において、倉淵地域の活性化対策として位置付けられている「小栗の里整備事業」の推進にあたり、基本構想（案）を策定するための基礎資料として実施したものです。

【調査対象者】

調査対象者は、倉淵地域内で活動する次の地域づくり団体（25団体）を対象に実施いたしました。

No.	対象団体名	No.	対象団体名
1	小栗上野介顕彰会	14	倉淵木炭協会
2	倉淵商工会	15	NPO源流
3	倉淵商工会 女性部	16	倉淵生活研究グループ連絡協議会
4	倉淵商工会 青年部	17	里山倶楽部
5	J Aはぐくみくらぶち草農生活センター	18	倉淵ほたるの会
6	J Aはぐくみ倉淵女性部	19	くらぶち草の会
7	J Aはぐくみ倉淵青年部	20	倉淵中学校PTA
8	烏川流域森林組合	21	倉淵東小学校PTA
9	区長会倉淵ブロック	22	倉淵中央小学校PTA
10	倉淵農業委員会	23	倉淵川浦小学校PTA
11	文化協会倉淵支部	24	倉淵地区子ども会育成会連絡協議会
12	倉淵林業研究会	25	倉淵こども園PTA
13	倉淵愛農会		

【実施方法】

実施方法については、平成19年7月17日（火）午後7時30分から、高崎市倉淵支所3階会議室3において、対象者を一同に集め、基本構想骨子（素案）を説明した後に、アンケートについて説明し、協力を依頼しました。

なお、回答にあたっては、各団体の総意として意見集約され、提出されるよう依頼しました。

【実施期間】

アンケートの提出期限 平成19年8月31日

【回答率】

回答率は以下のとおりで、各設問ごとの回答状況は別紙のとおりです。

地域づくり団体を対象としたもの

対象団体数	25
回答団体数	24
回答率	96.0%

小栗の里の位置付けについて

基本構想「骨子」(素案)

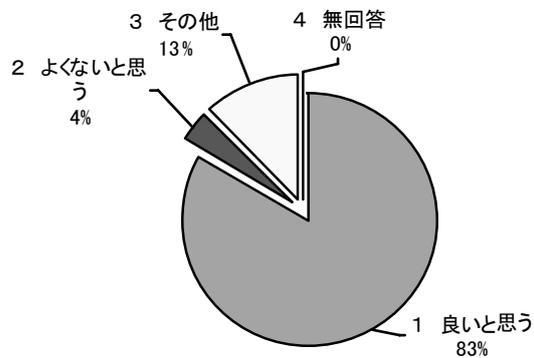
旧倉淵村当時は、権田地区を中心に「小栗の里づくり事業」が検討されていたが、地域全体の活性化を図る観点から合併後の本事業では、倉淵地域全体を「小栗の里」と位置付けたい。

- 問1 小栗の里の位置付けについて、どう思いますか。
次の中から、1つ選んで番号に をつけてください。

【回答状況】

回答項目	回答数
1 良いと思う	20
2 よくないと思う	1
3 その他	3
4 無回答	0
計	24

小栗の里の位置付け



3 その他の内容

- ・小栗という名前に限定するのはいかかなものかと思う。倉淵の良さは自然であり、“小栗”という名前では自然をイメージできないと思う。
- ・道祖神の里がよいのではないか？
- ・倉淵のPR要素には様々なものがあると思うので
- ・権田中心にしたほうが良いと思う
- ・結果的にそうなることが望ましい

注 - 1 複数回答があったため、「3 その他」の回答数と不一致

拠点施設整備について

基本構想「骨子」(素案)

倉渚地域の拠点となる施設整備にあたっては、倉渚地域等の物産販売、小栗上野介関連資料や豊田一男氏美術作品の展示、観光案内所等の内容を盛り込んだ施設とし、倉渚地域全体の情報発信基地的な施設としたい。

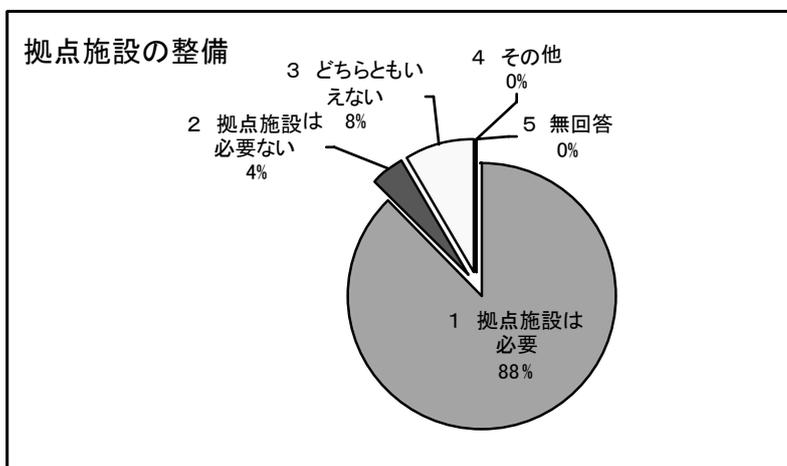
また、合併によって生じた公共施設等の空きスペースの有効活用も検討し、早期実現を図りたい。

なお、施設の運営については、地元住民やNPOなどによる運営を検討し、地場産品等の販売は、地元生産者等の参加により実施していきたい。

- 問2 拠点施設の整備について、どう思いますか。
次の中から、1つ選んで番号に をつけてください。

【回答状況】

回答項目	回答数
1 拠点施設は必要	21
2 拠点施設は必要ない	1
3 どちらともいえない	2
4 その他	0
5 無回答	0
計	24



4 その他の内容

なし

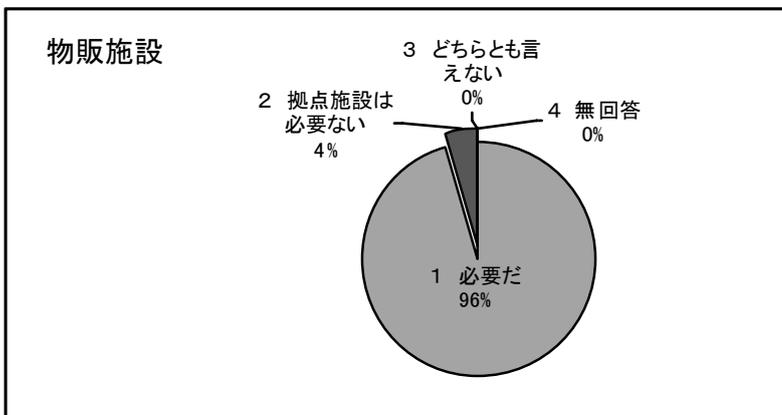
問3

問2で、「1」「3」「4」のいずれかと答えた方にお尋ねします。
 施設を整備していく上で、必要と思われるものは何ですか。それぞれの質問に対して該当する答え1つに をつけてください。

倉淵地域を中心とした物産（農林産物、清酒、お菓子など）の販売施設

【回答状況】

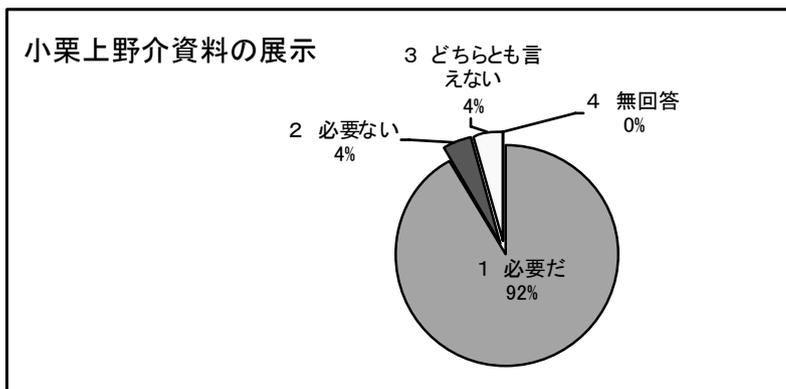
回答項目	回答数
1 必要だ	22
2 必要ない	1
3 どちらとも言えない	0
4 無回答	0
計	23



小栗上野介資料の展示

【回答状況】

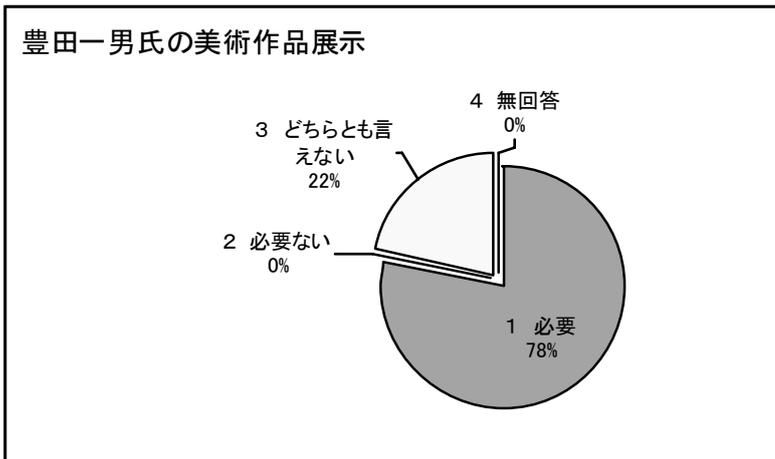
回答項目	回答数
1 必要だ	21
2 必要ない	1
3 どちらとも言えない	1
4 無回答	0
計	23



豊田一男氏の美術作品展示

【回答状況】

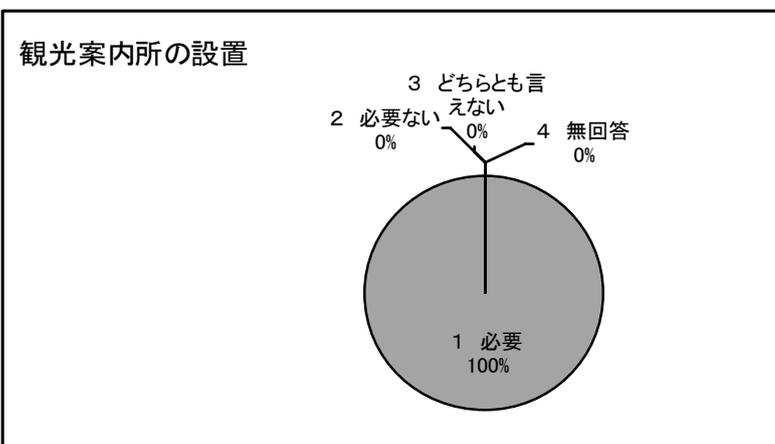
回答項目	回答数
1 必要	18
2 必要ない	0
3 どちらとも言えない	5
4 無回答	0
計	23



観光案内所の設置（史跡、温泉、宿泊施設、登山、公園、体験施設などの紹介）

【回答状況】

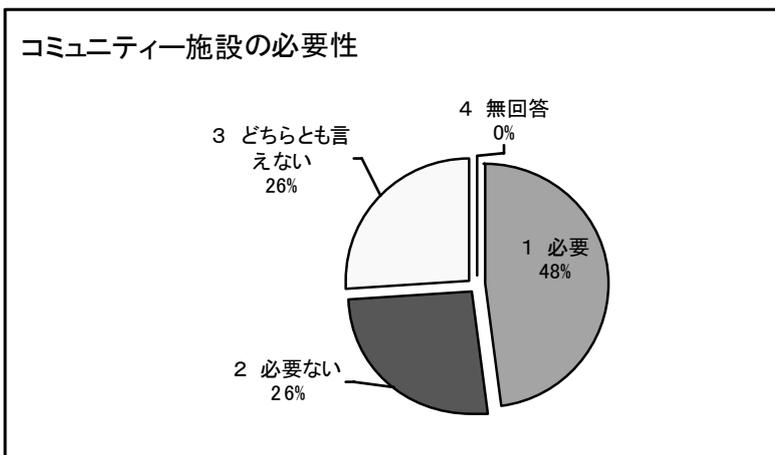
回答項目	回答数
1 必要	23
2 必要ない	0
3 どちらとも言えない	0
4 無回答	0
計	23



住民が自由に集まれるような「住民寄り合いの場」（コミュニティー施設）

【回答状況】

回答項目	回答数
1 必要	11
2 必要ない	6
3 どちらとも言えない	6
4 無回答	0
計	23



上記 から 以外に、必要と思われるものがありましたら、お書きください。

回 答 状 況
・拠点施設には、お年寄りと子供のふれあい、郷土食、伝統食、農産加工体験の出来る場所が必要
・道の駅
・貸自転車、森林公園、親水公園
・地域の食材を使った農家レストラン（日替わりシェフやメニューが変わるユニークな取り組みができれば・・・）
・花を何か活かせれば
・権田栗毛、道祖神の啓発、岩窟観音、文化財の啓発
・道祖神関係の展示
・地元の素材を使ったこだわりのある食事処
・公衆トイレとごみ箱の設置
・各区の公民館を有効活用すべき
・誰でも使用することのできる、真空パック機・缶詰機等の設備がある生産物加工施設が必要。

問 4

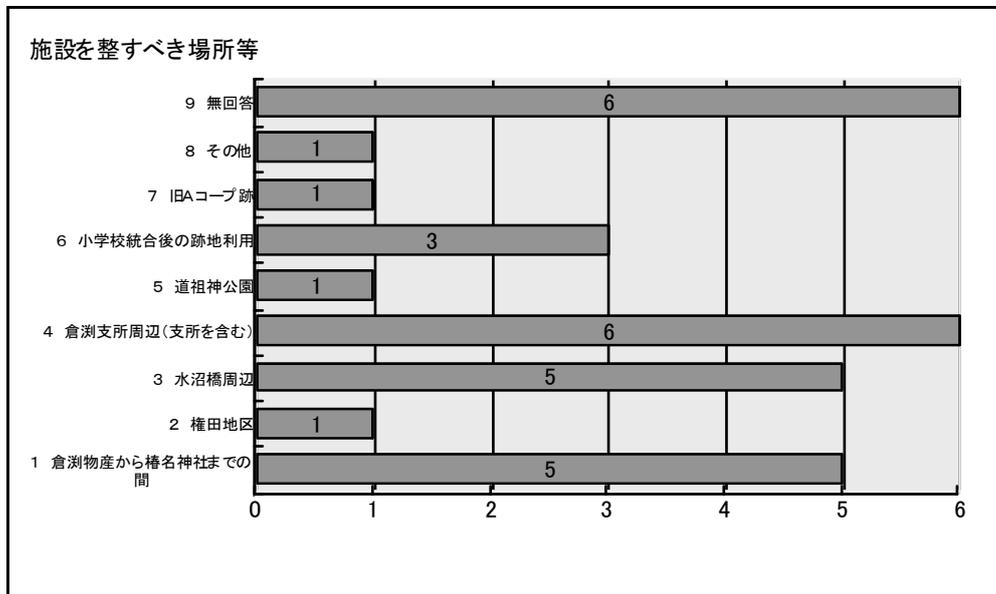
施設を整備すべき場所としては、集客性と小栗上野介関連史跡の位置を考慮し、国道406号線沿いの水沼橋周辺から、権田の交差点までの間とし、公共施設の空きスペース等の有効活用も検討しています。

施設を整備していくのに適切だと思われる、場所や公共施設等がありましたら、お書きください。

【回答状況】

回答項目	回答数
1 倉淵物産から権名神社までの間	5
2 権田地区	1
3 水沼橋周辺	5
4 倉淵支所周辺（支所を含む）	6
5 道祖神公園	1
6 小学校統合後の跡地利用	3
7 旧Aコープ跡	1
8 その他	1
9 無回答	6
計	29

注 - 1 複数回答があったため、計欄と回答団体数が不一致となる

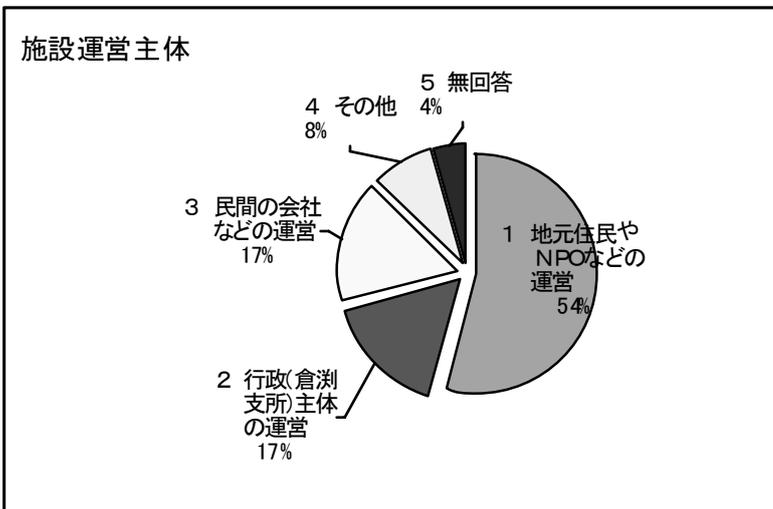


問5

施設の運営については、地元住民やNPOなどによる運営を検討しています。
その施設の運営をしていくのに適していると思われるもの1つを選んで番号にをつけてください。

【回答状況】

回答項目	回答数
1 地元住民やNPOなどの運営	13
2 行政（倉渚支所）主体の運営	4
3 民間の会社などの運営	4
4 その他	2
5 無回答	1
計	24



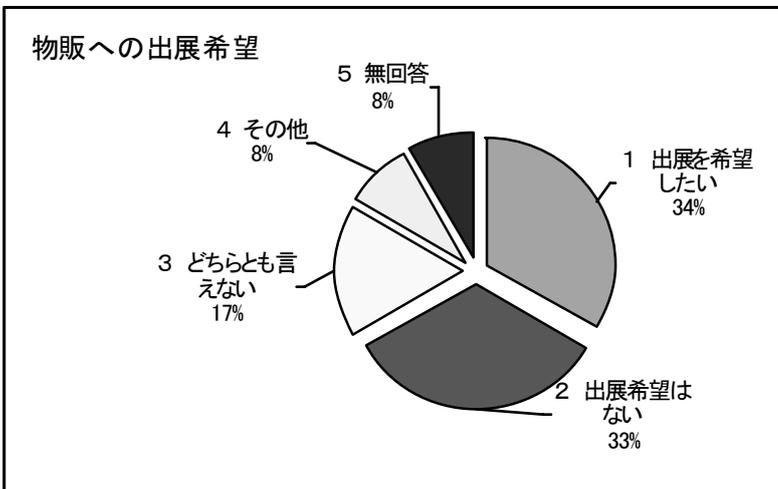
4 その他の内容
・ 第三セクター
・ NPOの運営が一番良いと思うが、支所に隣接するJAはぐくみも巻き込んでするのはどうか。
・ 施設の内容によって。
・ 遺品館・美術館・観光案内等は行政主体で、お土産等の販売品に関する商売は民間が良い。

注 - 1 複数回答があったため、「4 その他」の回答数と不一致

問6 施設での地元の特産品などの販売は、出店希望される団体等を考えています。その場合、あなたの団体は出店を希望されますか。次の中から1つ選んで番号に をつけてください。

【回答状況】

回答項目	回答数
1 出展を希望したい	8
2 出展希望はない	8
3 どちらとも言えない	4
4 その他	2
5 無回答	2
計	24



4 その他の内容
・ 団体に限らず個人での出店、出品も認めるべき。
・ 施設規模、内容による。
・ 団体としては出展できないが、個人としては可能性あり。

注 - 1 複数回答があったため、「4 その他」の回答数と不一致

小栗上野介顕彰事業の支援について

基本構想「骨子」(素案)

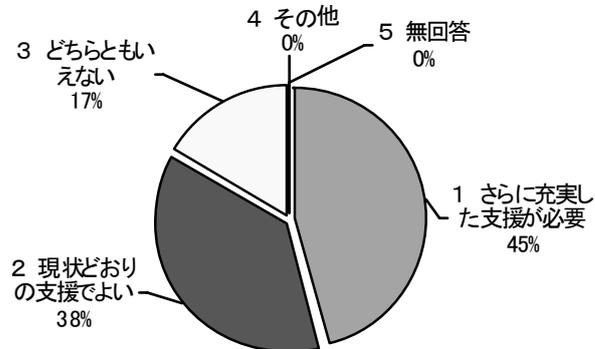
倉淵地域では、小栗顕彰会を中心に小栗上野介の偉業を顕彰する事業を行ってきた。この事業を充実させるよう支援していきたい。

問7 小栗上野介顕彰事業を支援していくことについて、どう思いますか。次の中から、1つ選んで番号に をつけてください。

【回答状況】

回答項目	回答数
1 さらに充実した支援が必要	11
2 現状どおりの支援でよい	9
3 どちらともいえない	4
4 その他	0
5 無回答	0
計	24

小栗顕彰会への支援



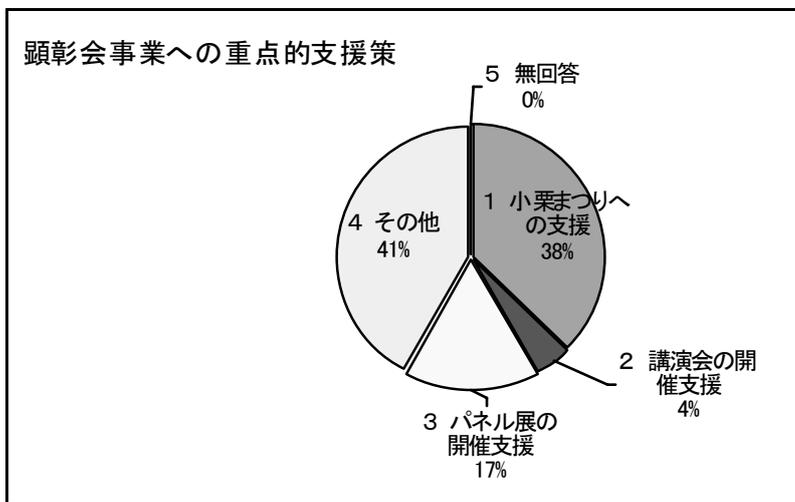
4 その他の内容

なし

問 8 現在行われている小栗上野介顕彰事業の中で、さらに重点をおいて支援していくことが必要と思われる事業1つに をつけてください。

【回答状況】

回答項目	回答数
1 小栗まつりへの支援	9
2 講演会の開催支援	1
3 パネル展の開催支援	4
4 その他	10
5 無回答	0
計	24



4 その他の内容
・ 姉妹観音周辺の整備。
・ 小栗の研交活動。
・ 広域的情報発信。
・ 小栗上野介の功績について子供たちを対象とした教育の支援。
・ 現状程度。
・ 特にありません。
・ 特に思いつきません。
・ 豊田一男氏の美術館は駐車場は同じでも隣接地に建てたほうがよい。
・ 道の駅は、大きくて綺麗なトイレが必要。

注 - 1 内容未記入があったため、「4 その他」の回答数と不一致

小栗上野介史跡等の整備について

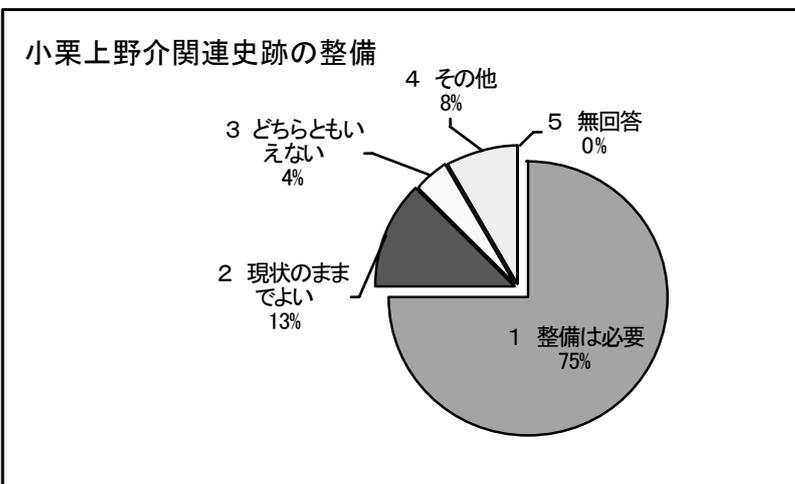
基本構想「骨子」(素案)

倉淵地域をはじめ市内に点在している小栗上野介ゆかりの史跡等に関して、案内表示板の設置や史跡周辺の整備を進めていきたい。
また、小栗上野介が建築しようとした、旧小栗邸〔所在：前橋市元総社町〕については、歴史的・文化財的な観点から研究していきたい。

問9 小栗上野介史跡等を整備していくことについて、どう思いますか。
次の中から、1つ選んで番号に をつけてください。

【回答状況】

回答項目	回答数
1 整備は必要	18
2 現状のままでよい	3
3 どちらともいえない	1
4 その他	2
5 無回答	0
計	24



4 その他の内容

- ・小栗つながりで前橋や横須賀など地域同士をつなげる活動がより進んでいけばと思う。
- ・旧小栗邸については考えるべきと思う。
- ・旧小栗邸の再建（新しく倉淵の材木、地元大工で作る。）
- ・旧小栗邸は、見取り図利用で新しい家を建てた方が良いと思う。
- ・小栗邸を倉淵にも復元して、前橋の旧小栗邸と相乗的に整備していく

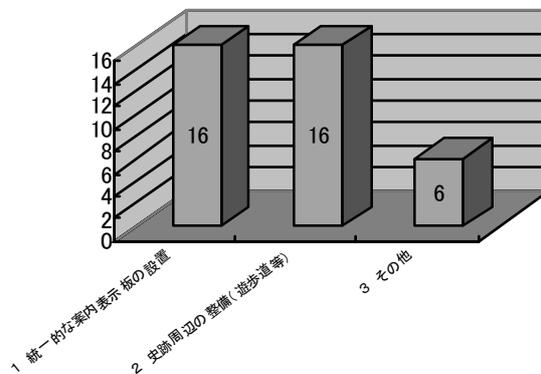
注 - 1 複数回答があったため、「4 その他」の回答数と不一致

問10 問9で、「1 整備は必要」と答えた方にお尋ねします。
 小栗上野介史跡等を整備していく中で、必要と思われるものすべてに をつけてください。

【回答状況】

回答項目	回答数
1 統一的な案内表示板の設置	16
2 史跡周辺の整備（遊歩道等）	16
3 その他	6
計	38

小栗関連施設重点整備の内容



3 その他の内容

- ・ 観音山を高遠城址のような桜山にする。
- ・ 道も必要ですが、倉淵内をぐるぐる回る「ぐるりんバス」が必ず必要。

注 - 1 内容未記入があったため、「4 その他」の回答数と不一致

小栗の里整備事業について、ご意見などございましたらご記入ください。

小栗邸の移築関係

小栗顕彰の中で、長年の懸案であった小栗邸移築について、この度、小栗の里づくり事業が具体化してきた事、大変喜んでおります。過疎化が進むこの地域として、最大限活性化に繋がりたいと思っています。

先日説明いただいた案は、地元産の物販や、地元観光のインフォメーション併設等幅広く考えていただいている事、大変有り難いと思います。先日の説明会の後、小栗邸の確証が無い為に小栗の里づくりの計画に組み込まれてないとのことでしたが、小栗邸が移築できれば、小栗様の功績等幅広くPRできるスペースも確保できると思います。倉淵時代に議会で移築について調査費を予算計上したら、「小栗邸という確証をだせ」と言われ、予算計上できなく計画はストップした、とお聞きしました。

私の思いますのは・・・

日本は昔から、平民の居住新築の際、当主の名を刻む文化が無かった訳で、小栗邸ではないと言う確証も無い訳です。

日本全国には伝説でも、地元観光資源として活用している例は枚挙にいとわない。小栗邸同様な建築物が、小栗様、没50年位前に建設され、その文化財の記録に、権田と三ノ倉から大工が来て、賃金を支払いした記録もあり、武家造りと農家造りの合掌技術を持った大工は居た事、等からして一つ提案致します。市に古民家研究グループのNPOもある訳ですから、調査研究していただくのも一つの方法と思います。

都丸邸家主の事情で残された時間は余り無いと思います。

現在、移築費用について、3億～4億と言われていますが、それは、4年前頃、ある村会議員さんに依頼され、NPO源流が簡単に調査した数字であり、骨組みだけの移築でしたら半分以下で可能と思います。今回のチャンスを逃したら、過疎地域で市議員が一人、と言う状況の中、小栗邸の移築だけの事業は絶望的と思います。小栗の里づくりだから、小栗邸が中心となっても、自然な流れだと思いますし、豊田美術館併設ならなお結構と思います。

小栗邸移築について、地元住民等の署名や嘆願書等必要とならば努力をします。どうか、再検討をしていただく方向に持っていただければ幸いです。小栗様顕彰と地域活性化のため、どうぞよろしく願いいたします。

旧小栗邸の移築については必要ないと思える。レプリカの方法を考えるのはどうか。

旧小栗邸の設置は無理ではないかとの意見でした。

旧小栗邸移築については必要ないと思う。

小栗邸の移築には大金がかかるので、他の周辺整備を行うのが良い。

旧小栗邸の移築について、いろんな意見が有ると思うが、築100年以上も経過している建築物を移動しても、後々はたしてどの位維持できるか問題だと思う。

都丸邸の移築は、価値は低く費用もかかるので必要ない。

旧小栗邸の移築について不可能である。明治48年、大正15年、昭和64年、平成19年、計140年以上経過しており解体、運搬、組立てが不可能であり、半分以上が使用出来ないと思う。総社町にある建物が小栗邸と言えるか疑問である。小栗が1日でも住んだならよいが、上棟にもならず、ただ刻んだだけである。

会津の武家屋敷のミニチュア版みたいな物はどんなものかなと思う。

箱物の大きいものでなく、水、緑を利用した駐車場の広い施設。

施設整備関係
小栗の里の位置付けは、権田地区で東善寺、小栗邸跡地が関連しているので・・・
これから先、小学校が統合して廃校になったときに使う。（東小、中央小）
施設の整備場所の選定が難儀。少し場所は遠いが、美洲CC跡地等はどうだろうか。（406号沿いの選定が困難な場合）小栗の里を高崎市と言わず、全国的に発信するためにも。
現状のままで、空いている場所を有効に使い、お金をかけなくて良いと思います。支所3階、公民館廊下、特別にするのではなく、近くていつでも見られ、用足しのつでに寄れるところ
支所の3階を活用すべきです。
合併によって倉淵地域を「小栗の里」と位置付けるならば、情報発信の核となる拠点施設は不可欠と思うが、公共施設空きスペース活用を優先すべきと考える。
倉淵地域全体を考えた中で、例えば、他の地域で良く見かけられる「道の駅」を参考に施設を造り、その中で道祖神の紹介や小栗上野介、豊田一男氏関係の展示スペースを設けたり、倉淵地域の物産の販売、観光案内所等を整備していくのが良いと思われま
す。
道の駅は、大きくて綺麗なトイレが必要
道の駅、観光案内所、売店（農産物、特産品）小栗の関連資料館を1箇所に建設すべきである。
建物の規模はある程度（300㎡）以上、駐車場は1ヘクタール以上ないと人が寄らないと思う。さらに、周辺に花を植栽したら集客が増えると思う。花はサルビア、グラジオラス、カンナ、ラベンダー等。場所は水沼橋から暖井の交差点の所が最適である。倉淵が一望でき、人は1番集りやすい場所である。
小栗の里整備事業は、地域全体の文化や情報発信の拠点性を有する複合的な施設整備など、施設の重点化を図り、他地域から見て「 の倉淵」のようなインパクトのある施設が必要
旧倉淵村総合計画の中にも計画されており、長年にわたった懸案事項であるので、是非交流施設として複合的な整備を図り魅力ある地域づくりに努める。
小栗の里のみに拘らず、総合的な施設にしてほしい（総合案内所、道の駅）
町外、県外からの視察が増えているので、観光面よりも歴史、文化的な面を重視した施設整備に重点を置いていただきたい。
拠点施設には何らかの形で、子ども達にも理解できるような工夫を・・・
倉淵の活性化を図る拠点になる施設が必要である。
人の集りやすい施設にしてほしい
豊田一男の絵画は、美術館として別に考える という意見があったが、入館料を支払って見る人は少ないと思われる。やはり、施設の一角に展示し、自由に見てもらう形がよい。
豊田氏の美術品については、役所の空きスペースを有効利用すれば、経費の節減や維持管理が容易だと思う。
豊田一男氏の美術館は駐車場は同じでも隣接地に建てたほうがよい。
新たな事業は必要ないと思います。費用的にも多く掛かるため。
新しい施設を作るのではなく現在あるものでまかなう。

施設の運営関係

地域にはクラインガルテン、はまゆう山荘等があることから、既存施設との連携強化が求められるほか、最も重要なポイントは、拠点施設をはじめ、連携する諸施設の運営管理を担う組織をどうするかにあると考える。地域の特性を生かすためには、地域住民中心の運営が理想かと思うが、行政としてどこまで応援できるかを明示しなければ、後で混乱を招く恐れがある。（運営費の支援がなければ地域住民中心では難しいのでは）

「道の駅」は珍しいうちには客も来るが、永い間には赤字になる。施設の一部に農産物販売コーナーを設け、出展者が交代で当番制にして運営するのが望ましい。

史跡周辺整備関係

史跡の案内等のパンフレット作成と公園の整備

観音山住居跡、東善寺を抜きには考えられないので、これらの場所を十分に活かした周辺整備が必要。

その他

小栗だけでなくもう一つ集客できる目玉があればと思う。

アンケート集約の結果で進められると思うが、時間がかかるのではないかと・・・

石津橋より中央小くらいまでの間に、歩行者用・自転車用道路の整備
烏川がアシで見えなくなってしまうので、きれいな川をよく見えるよう、年に1回くらいは以前みたいに焼いたらどうか。
倉淵の発信拠点として、文化、物産、観光等総合的な場として活用できたらと思います。

小栗上野介は、新しい物、新しいことを先んじて取り入れ、改革を行い、歴史を作った人です。偉大な人で郷土の誇りであることはもちろんですが、名前にしばられず過去にとらわれず新しい取り組みでの活性化を倉淵地域は求めています。

小栗上野介は、倉淵に移住したのち、若者に新しい時代に対応できる教育を施そうと考え、「いまにこの谷から太政大臣をだしてみせる」と夢を語り、村人にも説いたそうです。そのことからこの地を独特で特色ある教育が受けられる地域にしたり、様々な自然体験活動ができるような教育拠点になればと思います。それが、小栗の願いに通ずるものと思うからです。

何処にでもあるような物を売ろうとする物産店のようなものを作るよりは、むしろ、手付かずの自然があることを売り物にしたほうが良い。
田舎は田舎であるべきで、田舎ならではの文化や自然を育てるべきである。

小栗の里整備事業については、顕彰会を中心に協力可能な団体で進めていただければ良いと思われます。

今後の観光地として、406号沿線に道の駅がない。旧倉淵村のとき構想があった。地域住民の関心が薄い。地域以外の小栗まつりへの参加が今後課題ではないか。

事業を拡大しようとするれば、営利目的で支配してしまう業者が出てくると思います。倉淵は昔から悪い体制が根強く、ある会社とある会社が陣取ってしまうという感じなので、住民一人ひとりが事業に興味を持ち、参加する気持ちを先ず奮い立たせなくては意味がないと思います。

その他(続き)

三ノ倉にある道祖神公園は、利用されていない状態である。
豊田氏の作品の展示は、はまゆう山荘が望ましいのでは・・・

高崎市の幕末の歴史整理

農繁期ゆえ、十分な議論が出来ていませんが、代表して記入してあります。周知の上で時間をかけて議論をしても良いと思います。

個人的には、せっかく高崎市になったので、事業のPRの部分(広報のための施設)を倉淵地域の外(高崎駅前など)に持っていても良いのでは?と思います。(レストラン併設のアンテナショップなど・・・)

小学校の3校統合を早急に実現していただきたいと思います。保護者側としては、これから子供を育てていく中で、現在の宙に浮いた状態が、あと何年続いていくのかと考えると、とても不安です。

まだ、どのような運動なのか理解できていないため、分かり易い説明を希望したい。私自身もこの事について情報を集め、自分なりに勉強して理解を深めていこうと思います。

不安定な時代と思われるので、もっと他県の物産店や、第3セクターなどの状況や運営の方向などよく検討して答えを出す方向の方がよいと思われます。2~3年で飽きられてしまったり、ゴミがやたらと増えるような事になっては、せっかく作っても無駄になるような状況は見たくないので、書かせてもらいました。

整備事業に決して反対ではなく、もっと倉淵と言う所はどのような所であり、地域の人たちの志などよく見極めた方が良いと思われます。思いつきや軽い気持ちではないと思いますが、慎重にお願いします。先ず子供に小栗様や豊田さんの事を学校で詳しく教えるのが先だと思われます。知らない子が思ったより多いです。

混沌とした時代の中で、こういった事業を進めていくことはとても難しいと思いますが、倉淵町にとってはとても大切なことだと思います。合併前に住民は何度も何度も村行政に期待しては裏切られの繰り返しでした。今回は、地域興しの最後のチャンスだと考えます。是非この事業が途中で終わることの無いようにお願いしたいと思います。倉淵の住民の意識が1つになって、この事業を前向きに進めていければ素晴らしい地域に生まれ変わると思います。倉淵を本当によく考えれば、決して過疎になるような地域ではないと思います。

ちなみに私は、1日に2・3回旧高崎市内と倉淵を往復しています。倉淵から一番近い駅は、安中榛名駅なので、高崎駅までの間を限定で低価格(往復500円位)で往復できればいいなと思うのですが、これを実現できる良い方法は無いでしょうか。これが実現すると学生は、高崎駅から時間をほぼ気にすることなく、どの学校にでも通えます。無論、小栗の里に訪れる方のためにも使えます。何よりも安中榛名駅の最大の利用方法だと思います。あとは、駅と倉淵を往復するバスが有れば完璧です。よろしく願いいたします。

道の駅や小栗記念館などを整備していただき、自然豊かな倉淵の特産品の販売や人々の交流の中で、農家の人たちがもっともっと元気になったらいいと思います。また、記念館や史跡を通して、小栗公の人間性にふれあえることはとても良いことだと思います。私は、小高用水を守ってきた地域の人々に育てられて大人になったと思います。小栗公は、心より尊敬する人です。

小栗の里整備推進委員会設置要綱

(設置)

第1条 新市基本計画における倉淵地域の重点事業に位置付けられる小栗の里整備事業の基本構想を策定するため、小栗の里整備推進委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、基本構想の策定に関し、次の事務に当たる。

- (1) 小栗の里の整備及び活用に関すること
- (2) 小栗関連史跡の整備に関すること
- (3) その他小栗の里整備事業に関し必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、委員20人以内をもって組織し、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 公共的団体を代表する者
- (3) 群馬県職員
- (4) その他市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、前条の規定による委嘱の日から基本構想の策定が完了する日までとする。

- 2 前条第2号及び第3号に規定する職により委員となった者は、当該職を退いたときは、委員の職を失うものとする。ただし、後任者が委嘱されるまでは、その職を行う。

(会長及び副会長)

第5条 委員会に会長及び副会長2名を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選によりこれを定める。
- 3 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集する。ただし、委員の3分の1以上の者から会議の招集の請求があるときは、会長は会議を招集しなければならない。

- 2 会議は、委員の半数以上が出席しなければ、これを開くことはできない。
- 3 会長は、会議の議長となる。
- 4 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求める

ことができる。

5 会議の議決を要する議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

6 会議は、公開とする。ただし、会長が特に必要と認めるときは、この限りでない。
(相談役の設置)

第7条 会長が特に必要と認めるときは、委員会に相談役を置くことができる。

2 相談役の人数は、若干名とする。

3 会長は、第2条に規定する事務を円滑に実施するため、相談役に助言を求めることができる。

4 会長は、会議終了後速やかに相談役に会議の報告を行うものとする。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、倉渚支所地域振興課において処理する。

(雑則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が会議に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成18年11月6日から施行する。

小栗の里整備推進委員名簿

役 職	氏 名	所 属	在任期間
会 長	村山 元展	高崎経済大学教授	H18.11.6~H20.3.31
副会長	市川 光一	高崎市文化財調査委員	H18.11.6~H20.3.31
	森田 秀策	高崎市文化財調査委員	H18.11.6~H20.3.31
委 員	新井 廣	倉渕農業委員会会長	H18.11.6~H20.3.31
	追川 清	倉渕商工会長	H18.11.6~H20.3.31
	熊倉 浩靖	NPOぐんま代表理事	H18.11.6~H20.3.31
	木暮 好子	倉渕商工会女性部長	H18.11.6~H20.3.31
	佐々木 茂	高崎経済大学教授	H18.11.6~H20.3.31
	佐藤 久男	高崎市文化協会倉渕支部長	H18.11.6~H20.3.31
	戸塚 馨	高崎市区長会副会長	H18.11.6~H20.3.31
	豊原 稔	NPO源流	H18.11.6~H20.3.31
	原田 清一	第6区長(地元区長)	H18.11.6~H19.3.31
	関 惇三郎	第6区長(地元区長)	H19.6.27~H20.3.31
	石関 史幸	群馬県建築住宅課職員	H18.11.6~H20.3.31
	市川 平治	高崎市参与・行政嘱託	H18.11.6~H20.3.31
	金子 孝男	高崎市倉渕支所長	H18.11.6~H19.3.31
	木村 正志	高崎市倉渕支所長	H19.6.27~H20.3.31
	北嶋 菊好	高崎市商工部長	H18.11.6~H20.3.31
坂井 和廣	高崎市地域振興部長	H18.11.6~H20.3.31	

小栗の里整備推進委員会の経過

第 1 回小栗の里整備推進委員会

- ・日 時 平成 18 年 11 月 6 日 (月) 13 : 15 ~ 15 : 27
- ・場 所 高崎市役所 (4 階) 庁議室
- ・出席者 委員 16 名 (欠席 1 名) 事務局 8 名

< 次第 >

- 1 開 会
- 2 参与挨拶
- 3 説 明
 - (1) 小栗の里整備事業の推進について
 - (2) 小栗の里整備推進委員会の設置について
- 4 委嘱状の交付
- 5 委員の紹介
- 6 会長及び副会長の選出
- 7 議 事
 - (1) 小栗の里整備事業推進にあたっての検討事項
 - (2) 今後の検討スケジュール
 - (3) その他
- 8 閉 会

委員会で出された主な意見

委員から出された主な意見の要旨を項目ごとに分けて整理した。

小栗の里整備事業の基本的方向に関する意見

- ・ 旧倉淵村当時の「倉淵村小栗の里等整備審議会」で焦点となったのは、小栗邸の移築。この委員会では、多角的及び機能的に考えていく。
- ・ 旧倉淵村では、一般的に「小栗の里 = 権田の里」だが、ここでは倉淵地域全体を指す。
- ・ 新高崎市として小栗公の問題を捉え、高崎市からの発信として位置付けていく視点が必要。
- ・ 行政主導でなく、地域住民の気持ちを表すためのアイテムとしての施設。
- ・ ソフト面での充実を図り、必要に迫られてハードを整備する。
- ・ 旧倉淵村で結論がでなかった都丸邸宅の方向性を示してほしい。
- ・ 基本構想は、施設整備だけでなく、ソフト事業も決定する。

拠点施設の位置付けに関する意見

- ・ 小栗公の拠点施設として、東善寺とはまゆう山荘がある中で、次の施設を建設するより、小栗を体験することが必要。
- ・ 施設があり、そこに寄った時に初めて小栗上野介が亡くなった場所ということを知ることができる施設。

倉渚地域と他の地域との連携に関する意見

- ・ 高崎市下斎田地域にも小栗関係の遺跡がある。
- ・ 横須賀市との交流には、倉渚地域以外に高崎市全体として交流する。
- ・ 駿河台の明治大学で小栗パネル展を開催する。開催には駿河台の地元町内会の協力もある。

小栗の里整備事業の将来的な運営に関する意見

- ・ ソフト面の整備に、小栗公を研究する部署を作る。
- ・ 旧倉渚村の3施設の改善を提案したが、今の状態では運営には問題がある。

第2回小栗の里整備推進委員会

- ・ 日 時 平成19年2月21日(水) 16:00~17:50
- ・ 場 所 高崎市役所(4階)庁議室
- ・ 出席者 委員14名(欠席3名)事務局9名

<次第>

1 開 会

2 挨拶

3 説 明

第1回小栗の里整備推進委員会で示された意見について

4 議 事

(1)小栗の里整備事業推進にあたっての検討事項

(2)小栗の里整備事業の予算について

(3)平成19年度事業予定

(4)その他

5 閉 会

委員会で示された主な意見

委員からの出された主な意見の要旨を、項目ごとに分けて整理した。

小栗の里整備事業推進にあたっての検討事項に関する意見

- ・ 小栗邸についての検討が必要。小栗邸には住まなかったが、その夢を実現させてやりたいという旧倉渚村民の心情がある。
- ・ 旧倉渚村時代の小栗の里づくりの答申は権田地区全部。全部白紙状態にして新規になっても良い。
- ・ 小栗邸は30年以上に亘って議論されたが、実行に移せなかった。
- ・ 倉渚地域全体を小栗の里としての位置づけを確認し、委員会で事業の枠を確認する。
- ・ 倉渚地域全体を小栗の里というのは決まった。3年間で全ての事業実施は不可能。どれを先に進めて小栗の里を完成させていくかを議論していく必要がある。
- ・ 次回の会議では、倉渚地域の各種グループ等の出した意見をまとめて、議論していきたい。
- ・ 小栗上野介の顕彰事業は、小栗顕彰会や研究会がやるのが良い。小委員会を作って意見を出し、事務局が整理していく。

小栗の里整備事業の予算に関する意見

- ・ 全体計画が、3カ年で行うなら、文化財というのは時間がかかる。3カ年で行うなら、自ずと事業が限定されてくる。
- ・ 事業を進める期間の延長を考えてほしい。
- ・ 委員会開催回数は、3回ではきつい。6回位予定する。

その他の意見

- ・ 倉渚地域の活性化なら誰のために何をやるのかという意識が必要。小委員会で議論して整理してほしい。
- ・ 委員会の議論を市民にアピールしたほうが良い。広報などで宣伝したほうが良い。
- ・ 倉渚地域の議員からも要望が多数ある。早い時期に事業を展開していきたい。

第3回小栗の里整備推進委員会

- ・ 日 時 平成19年6月27日(水) 14:58~15:46
- ・ 場 所 高崎市倉渚支所(3階)会議室3
- ・ 出席者 委員14名(欠席3名)事務局8名

<次第>

- 1 開 会
- 2 挨 拶
- 3 報 告
委員の変更について

4 議 事

(1) 小栗の里整備事業基本構想「骨子」(案)について

(2) 住民の意見集約について

ア 基本構想「骨子」(案)に関する説明会の開催について

イ 意見書(アンケート)依頼団体について

ウ 基本構想「骨子」(案)に対する意見書(アンケート)について

(3) 今後の予定について

(4) その他

5 閉 会

委員会で示された主な意見

委員からの出された主な意見の要旨を、項目ごとに分けて整理した。

小栗の里整備事業推進にあたっての検討事項に関する意見

- ・ 豊田画伯の絵画は支所で保管・展示しているが、高崎市美術館が新しい施設を作ると聞いており、学芸員のいるところの方が保存・移動・展示が適切にできる。独自に施設を整備し、展示していくのは実技面で困難ではないか。
- ・ 小栗邸に関する研究は、時間が係る。研究とはどういうことか方向性を示した方がよい。
- ・ 都丸邸の移築でなく、縮小したものを観音山に建築することも検討してはどうだろうか。
- ・ 小栗上野介を顕彰する思いがあるので、活性化だけでなく、思いを伝える施設であって欲しい。
- ・ 各種団体へのアンケートの結果を踏まえ、骨子案の文言を再度検討し、骨子を作る。

住民の意見集約について

- ・ 倉渚地域外へ住んでいる方の意見を聴くことはできないか。
- ・ アンケートのほかに、高崎経済大学村山ゼミの学生が、倉渚地域の調査に入る。
- ・ 各種団体へアンケート調査の説明会を行い、アンケートを実施する。

その他の意見

- ・ 倉渚地域外で、倉渚に関する講演会等を実施すると、出身者は関心を持ち参加する。
- ・ 地域外から嫁に来た人は、小栗公についてあまり詳しくないので、そういう人にも広めたい。

- ・ 教育の面では、社会科の副読本にも載っている。
- ・ 小栗の里というネーミングを使うことにより、底辺が広がっていくと思う。

小栗の里整備事業基本構想「骨子」(案)取りまとめに関する説明会

- ・ 日 時 平成19年7月17日(火) 19:30~20:49
- ・ 場 所 高崎市倉渕支所(3階)会議室3・4
- ・ 出席者 各種団体23名(18団体)
村山会長及び事務局8名

<次第>

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 説明事項
 - (1) 小栗の里整備基本構想「骨子」(素案)について
 - (2) 基本構想「骨子」(素案)に対する意見書について
 - (3) その他
- 4 閉 会

説明会で示された主な意見

参加者からの出された主な意見の要旨を、項目ごとに分けて整理した。

小栗邸に対する研究に関する意見

- ・ 小栗邸はこの事業のメインとなりうる施設だと思うが、なぜ今後、歴史的・文化財的な点から研究という表現になったのか、移築の方向で検討をお願いしたい。
- ・ 複合的に活性化に繋がるように検討されているが、道の駅との併設は考えていないか。
- ・ 百年以上経過しており、移築が可能か可能でないか研究しておく必要がある。

施設整備の時期に関する意見

- ・ 3年くらいで整備ができるのか。

アンケート提出期限に関する意見

- ・ 団体へ持ち帰り、検討して提出するには、期限が短すぎる。

第4回小栗の里整備推進委員会

- ・ 日 時 平成19年10月30日(火) 15:29~16:22
- ・ 場 所 高崎市倉渕支所(3階)会議室3

- ・出席者 委員13名(欠席4名)事務局8名

<次第>

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 報 告
基本構想「骨子」(案)に対する意見書(アンケート)について
- 4 議 事
(1)小栗の里整備事業基本構想「骨子」(案)について
(2)今後の予定について
(3)その他
- 5 閉 会

委員会で示された主な意見

委員からの出された主な意見の要旨を、項目ごとに分けて整理した。

小栗の里整備事業基本構想「骨子」(案)について

- ・ アンケートの中に、小学校統合後の跡地利用をしたらという意見があるが、統合の進捗状況と本計画の時期は一致するのか。
- ・ 拠点施設の候補地に三箇所あがっているが、十分に協議して決定しなければならない。

今後の予定について

- ・ スケジュールから遅れているようだが、なるべく早めに進めていただきたい。

その他の意見

- ・ 基本構想書が完成したら委員長名で市長に提出する形式をとるのか事務局で検討して欲しい。
- ・ アンケート調査に協力した団体に、結果を戻していくことが必要である。
- ・ 施設整備後は、他の地域との協力体制を検討して欲しい。

第5回小栗の里整備推進委員会

- ・日 時 平成20年2月22日(金) 16:00~17:55
- ・場 所 高崎市倉渕支所(3階)会議室3
- ・出席者 委員13名(欠席4名)事務局7名

< 次第 >

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

(1) 小栗の里整備事業基本構想 (案) 中間報告について

(2) 今後の予定について

(3) その他

4 閉 会

委員会で示された主な意見

委員からの出された主な意見の要旨を、項目ごとに分けて整理した。

小栗の里整備事業基本構想 (案) 中間報告について

- ・ 第 4 章の 3 (1) 史跡の考え方および (2) 史跡周辺の整備の項目に、倉淵地域の史跡だけでなく市内に点在する他の史跡も入れた方がよい。
- ・ 地域内の山を記載した部分が 3 箇所あるが、杏ヶ岳の掲載が欲しい。
- ・ 拠点施設設置の場所選定、運営していく組織作り、人材の育成と地域活性化の推進を図っていくための体制作りの検討をして欲しい。
- ・ 基本構想策定にあたり各種団体のアンケート調査は行なったが、今後、行政区座談会等を開催し、計画の周知を図る必要がある。
- ・ 各種展示施設は、展示物の長期的な企画を作っており、企画の検討も必要である。
- ・ 出された意見の中で、基本構想に書き込むものと今後の進め方の話を整理し、訂正していく。

第 6 回小栗の里整備推進委員会

- ・ 日 時 平成 2 0 年 3 月 2 8 日 (金) 1 1 : 3 0 ~ 1 1 : 3 8
- ・ 場 所 高崎市役所 (4 階) 庁議室
- ・ 出席者 委員 1 1 名 (欠席 6 名)、松浦市長、座間副市長、事務局 8 名

< 次第 >

1 開 会

2 挨拶

3 小栗の里整備事業基本構想書の提出

4 閉 会

小栗の里整備事業基本構想

発 行 / 小栗の里整備推進委員会

〒370-3492 群馬県高崎市倉淵町三ノ倉 3 0 3 番地 電話 027-378-3111 (代)

編 集 / 高崎市倉淵支所 地域振興課

発行日 / 平成 2 0 年 3 月

